

# 小松市内遺跡発掘調査報告書 XVII

漆町遺跡金屋地区

2022. 3

石川県小松市埋蔵文化財センター

---

## 例 言

---

1. 本書は、石川県小松市において小松市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 試掘調査・発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、文化庁補助金を受けて実施した。
3. 対象となった埋蔵文化財、並びに調査地・調査原因・調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。

### 【漆町遺跡金屋地区】

- 【調査地】 石川県小松市金屋町  
【調査原因】 個人住宅建設（3軒）  
【試掘調査】 2013.3.12、2013.3.14、2013.3.15  
【試掘担当】 岩本信一  
【調査面積】 A区：370㎡、B区：352㎡、C区：305㎡  
【調査期間】 A区：2013.8.26～2013.12.24  
                  B区：2013.9.23～2013.12.24  
                  C区：2013.8.26～2013.12.24  
【調査担当】 川畑謙二、横幕 真

4. 発掘調査は、臨時作業員を雇用して実施した。
5. 出土品整理並びに実測・製図は、会計年度任用職員を雇用して、平成27年度及び平成30年度～令和3年度に実施した。
6. 遺構の実測及び写真撮影、遺物の写真撮影は調査担当者が行った。
7. 本書の執筆と編集は横幕が担当した。付章は金沢学院大学の中村晋也准教授の御協力を受け、玉稿を賜った。また本製品の樹種特定には、能城修一氏、佐々木由香氏、高橋敦氏の御協力を受けた。
8. その他、報告書執筆に際して、次の方々に御教示を受けた。記して謝意を表する（50音順・敬称略）。  
岩瀬 由美 鏡 百恵 垣内 光次郎 小坂 大 田嶋 明人 西田 昌弘 藤田 邦雄 水澤 幸一  
向井 裕知 安中 哲徳
9. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて小松市埋蔵文化財センターで一括保管している。

---

## 凡 例

---

1. 本書に示す座標は平面直角座標Ⅶ系、高度は標高（TP.）で表示し、世界測地系「測地成果2011」に準拠している。
2. 本書に示す方位は、特に断りがない限り、座標北である。
3. 本書に示す土色は、マンセル色色系に準拠している

---

## 目 次

---

I	位置と環境 .....	1
II	漆町遺跡金屋地区発掘調査（横幕） .....	13
	付章 漆町遺跡金屋地区出土ガラス質物質片の自然科学的検討（中村） .....	61
	写真図版 1～9	
	報告書抄録	

# 第1章 位置と環境

## 第1節 地理的環境

小松市の地形は、その形態や発達状況、面の連続性等により、東から山地（両白山地）、丘陵地（能美丘陵）、台地（八幡台地・月津台地・柴山台地）、低地（能美低地：後背湿地・自然堤防・沿岸州Ⅰ・沿岸州Ⅱ・沿岸州Ⅲ）、扇状地に区分することができる。これらの地形は、小松市周辺において北西―南東の圧縮を受けながら全体的に隆起している大地の上で、第四期半ば以降に繰り返されてきた地球規模での約10万年周期の温暖・寒冷の繰り返しによる気候変化（氷期―間氷期サイクル気候変化）、これに伴う海面変化の影響によって形成されたものである。

小松市における台地は、現在とほぼ同様の気候であったと推定されている最終間氷期、その中の約12万年前と10万年前に形成された海成段丘面からなっている。この当時には、現在の丘陵地の縁辺まで海域となっていたと考えられている。その後訪れる地球規模での寒冷化が進んだ最終氷期には、海面低下に伴う河川の下刻により、これらの台地は大きく掘り込まれ、月津台地と八幡台地や柴山台地との間には、谷地形が形成される。ボーリング試料の花粉分析により、当時の小松市の植生は、冷温帯上部～亜寒帯下部に相当する広葉樹と針葉樹の混交林が広がっていたことが推定された。最終氷期の終了後には気候が温暖化し、海面が急激に上昇することにより、縄文海進の影響が小松市周辺にも及び、台地、丘陵地の縁辺まで海域が広がったと思われる。この際には、最終氷期に形成された谷地形も海底となった。縄文海進のピーク頃（約7,300年前）には、小松市周辺に存在した内湾は、水深が現在の梯川と前川合流部付近で約20m、今江潟付近で約17m、木場潟周辺では約6～7m程度であったと考えられる。これらの海域は、約7,000年前以降には、小松空港が立地する地形である沿岸州Ⅱが発達し、日本海から切り離されることとなり、潟湖（ラグーン）の原形がつくられる。能美低地は、沿岸州の内陸側に存在する水域が河川から供給された堆積物により埋積されたものであり、その際の埋め残された水域が海跡湖である加賀三湖（木場潟・今江潟・柴山潟）となっている。また、小松市市街地が位置する沿岸州Ⅰの形成は、少なくとも約7,000～5,300年前には終了している。

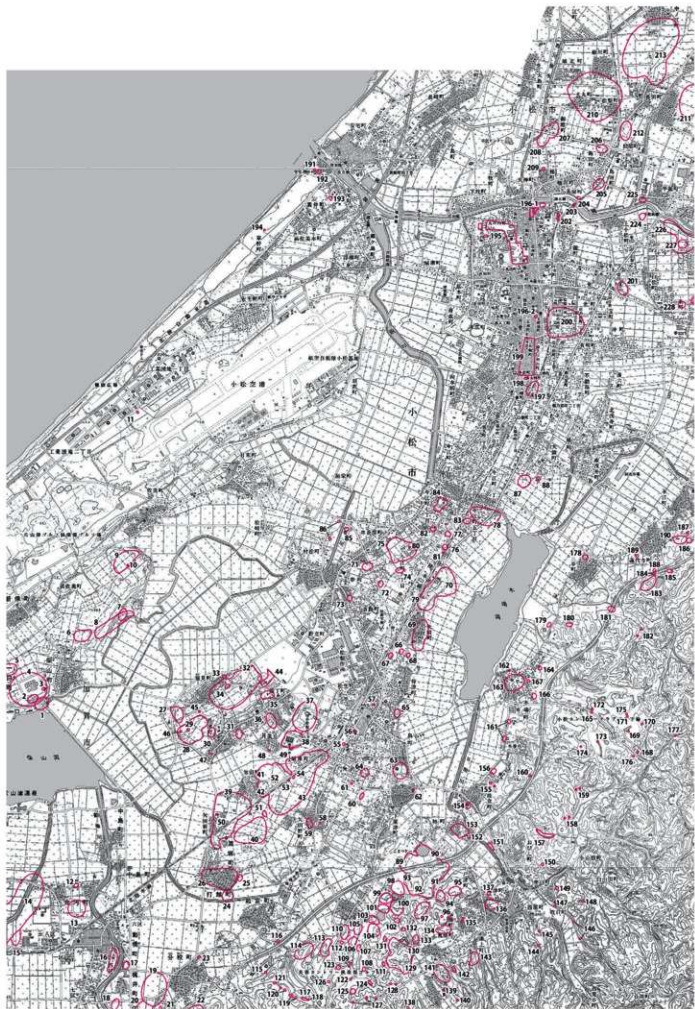


第1図 小松市の位置

冷温帯上部～亜寒帯下部に相当する広葉樹と針葉樹の混交林が広がっていたことが推定された。最終氷期の終了後には気候が温暖化し、海面が急激に上昇することにより、縄文海進の影響が小松市周辺にも及び、台地、丘陵地の縁辺まで海域が広がったと思われる。この際には、最終氷期に形成された谷地形も海底となった。縄文海進のピーク頃（約7,300年前）には、小松市周辺に存在した内湾は、水深が現在の梯川と前川合流部付近で約20m、今江潟付近で約17m、木場潟周辺では約6～7m程度であったと考えられる。これらの海域は、約7,000年前以降には、小松空港が立地する地形である沿岸州Ⅱが発達し、日本海から切り離されることとなり、潟湖（ラグーン）の原形がつくられる。能美低地は、沿岸州の内陸側に存在する水域が河川から供給された堆積物により埋積されたものであり、その際の埋め残された水域が海跡湖である加賀三湖（木場潟・今江潟・柴山潟）となっている。また、小松市市街地が位置する沿岸州Ⅰの形成は、少なくとも約7,000～5,300年前には終了している。



第2図 小松市の地形



第3圖 遺跡分布圖



## 第2節 歴史的環境

### 1 旧石器～縄文時代

最終氷期が11,700年前に終わり、後氷期の温暖化に伴って縄文海進と呼ばれる海面上昇が進行し、前期前葉にもっとも温暖化した時期を迎え、当時の海面は現在よりも2～3m高かったことが明らかにされている。旧石器後期～縄文草創期は晩氷期に、縄文早期は海進期に相当し、自然環境が安定した前期中葉～晩期においても地球規模での寒冷化を3度経ている。旧石器時代後期から縄文時代は自然環境が大きく変わる時代にあっており、環境変化に適応しながら人びとは狩猟・漁労・植物採集活動を主生業とし、生活を送ってきた。

小松市域においては、旧石器後期～縄文草創期の石器が東部丘陵の八里向山遺跡群(310～319)や月津台地の念仏林遺跡(37)・矢田野エジリ古墳(55)から出土しており、丘陵上が生活や狩猟活動の場となっていたことがうかがわれる。早期末～前期初頭には六橋遺跡(369)や柴山水底貝塚(1)で定住生活が始まり、前期前葉に最高の海水準に達し、海水面が安定した前期中葉から居住が再開されて木場潟を望む大谷山貝塚(156)が築かれた。前期を通じて沿岸州が発達し、木場潟・今江潟・柴山潟の加賀三湖の原形が形成された。中期前半には柴山潟を前面にした月津台地の念仏林南遺跡(38)・念仏林遺跡(37)で人びとが暮らし始め、中期後半からは大杉谷川・淳上川流域の河成段丘に生活の場を求めて移住している。さらには梯川・鍋谷川流域の能美低地でも集落が営まれていた。

### 2 弥生時代

八日市地方遺跡(200)が、本格的な稲作社会の指標となる環濠集落として成立するのは、弥生時代中期初頭、紀元前350年ごろのことである。西から日本海経由で播磨土器を携えた人々と地元で条痕土器を使っていた人々が、協働でムラづくりを行った。環濠集落形成当初から、農具など稲作文化を支える諸道具が網羅的に生産され、計画的に新時代のムラづくりがおこなわれたことがわかる。集落内では、市の南部で産出する良質の碧玉を原材に管玉生産が大規模に行われ、日本海を通じた西の社会との交換財として流通した。東アジア最古となる柄付鉄製 鐮 の出土は、交換財の一つが最先端の鉄の道具であったことを物語っている。小松式土器が成立した集落の最盛期には、まさに東西文化の結節点の役割を果たした。近年、北陸新幹線建設に伴う園町遺跡(202)の発掘調査で、同時期の環濠集落が発見された。沿岸州上の至近距離で環濠集落が形成されていることは、拠点集落の機能を考える上で再検討を迫るものである。中期後葉(紀元前100年頃)に、西から凹線土器とよばれる新しい土器型式が波及しはじめると、八日市地方遺跡は急速に縮小から解体へと向かう。同時に小規模な集落が梯川やその支流へと分散したと考えられるが、遺跡数は低調である。

やがて弥生時代後期前半(紀元後100年頃)になると、木器生産が盛んに行われた白江梯川遺跡(226)や、北陸でも最古級の鉄鍛冶と銅鑄の鋳造関連資料が発見された一針B遺跡(231)など、ある程度ものづくりの中心的な役割を担った集落が登場しはじめる。後期後半には、梯川の中流域を中心に遺跡は拡散・急増し、流域は県内屈指の遺跡密集地となっていく。低地だけでなく、八幡遺跡(254)や吉竹遺跡(246)など、台地上でも遺跡が展開しはじめており、新たに加賀三湖に囲まれた月津台地でも、念仏林南遺跡(38)や額見町西遺跡(27)といった高台の集落も誕生している。

また、後期後半の一時期、低地との比高が20mを超えるような急峻な丘陵地で、短期的な集落が認められるようになる。いわゆる高地性集落と呼ばれ、古墳時代前夜の緊張状態を示すとも考えられているが、梯川流域の集落が全て高所に移動するわけではなく、平野部の遺跡が並存している。河田山遺跡(286)は、明らかに防御機能を備えた集落と考えられるが、一方、大型住居や倉庫群を伴いな



から、複数集落で構成される八里向山遺跡群(310～319)は、丘陵上に拠点的な役割を担う集落が存在したことを示している。これらの丘陵地では、古墳時代が幕を開けると同時に集落は終焉を迎え、台頭した首長たちによる古墳造営の舞台へと変わっていく。

### 3 古墳時代

古墳の造営主体の多くは、弥生時代以来の農業生産を基盤とした集団を統率する首長層であった。南加賀では、北の能美低地と南の江沼低地(加賀市域)といった二つの穀倉地帯が勢力基盤となり、それぞれの低地を望む丘陵地で古墳を築造した。こうして能美と江沼両地域の首長は、南北で拮抗する勢力圏を形成したのである。

能美地域の古墳群は、古墳総数が200基を越えるとされ、わけでも能美市の和田山・末寺山・秋常山など独立小丘上の古墳群は、北陸最大級の前方後円墳を擁して中核を成している。一方で、梯川を望む小松市東部丘陵地には総数60基を越える河田山古墳群(287)があり、地域支配の補完関係が目目される。能美低地中央に位置する千代・能美遺跡(234)では、前期の首長居館とされる遺構を検出しており、能美勢力の中核部を考える上で重要である。

中期の能美地域は、北陸有数の甲冑集中地域で知られる。埴田後山古墳群(283)や八里向山F古墳群(315)など、中・小規模の円墳を主体とする古墳群でも出土し、倭王権との軍事的関係を契機とした新興勢力の台頭が想定される。

後期になると、これまで古墳の空白地帯であった加賀三湖に囲まれた三湖台地域(月津台地)で、突如として小型前方後円墳を中心とする多数の古墳群が誕生する。大量の人物埴輪が出土した矢田野エジリ古墳(55)が著名であるが、その勢力基盤については謎が多い。この頃、台地に連なる丘陵地で須恵器生産が始まり、さらに越前から継体天皇が擁立されるなど、手工業生産や加賀三湖の水運を意識した勢力構図の再編が進行したようだ。

終末期の南加賀では、墳丘を持つ群集墳の形成がほぼ終息し、加賀市法皇山のような横穴古墳群のみが継続する。そして、中央氏族の関与が想定される特定階級の墳墓として、河田山の切石積横穴式石室の築造、最後は横式石槨を持つ那谷金比羅山古墳の築造をもって古墳時代は幕を閉じる。

### 4 古代

南加賀地域には、能美地域古墳群の母体となる能美平野の集落遺跡群と江沼地域古墳群の母体となる江沼盆地の集落遺跡群とがあり、それが飛鳥時代以後も継続的に在地首長層の地盤として営まれ、継続的に集落経営がなされた。

沖積低地の伝統的な集落遺跡に対し、7世紀になって突如、月津台地に三湖台地集落遺跡群が面的な広がりをもって出現する。当遺跡群は、製鉄や製陶等の手工業生産に生業を置く集落であり、竪穴建物跡付設の竪穴土師器や出土する移民系土師器の形態から、朝鮮系移民を軸とする政治的移配の移民集落群と位置づけた。

三湖台地集落遺跡群の西を挟んだ東側丘陵には、7世紀以降に生産を活発化させる南加賀製陶遺跡群と当期に砂鉄製錬を開始する南加賀製鉄遺跡群が広く分布する。製陶遺跡群は5世紀末から操業を始めるが、7世紀に新たな技術を取り入れ生産拡大しており、7世紀後半から8世紀へと製鉄もあわせ更なる生産拡大を図る。製陶は10世紀中頃まで、製鉄は12世紀まで連綿と操業する北陸最大規模の古代手工業生産地帯であり、三湖台地集落遺跡群を丘陵部製陶製鉄遺跡群の母体集落として一体的に経営されたと理解する。

## 5 中世

中世前期に区分される平安時代末から南北朝時代（12世紀中頃～14世紀中頃）、耕地が展開した低地では、地頭や武士などの在地領主をはじめとして、自作農の名主なども点的な小集落を営み、耕地を見下ろす丘陵には、経塚や墳墓など祈りの場が設けられた。なかでも、佐々木ノテウラ遺跡(241)の区画溝と住宅は、得橋郷で敷設された中世条里の確認事例として注目できる。古府シマ遺跡(269)は、立地とその歴史的な環境、鎌倉期に盛行した集落規模に加えて、高級な中国製陶磁器なども潤沢に受容した生活様相から、加賀の国衙に深く関連した集落遺跡として評価できる。また宮の奥経塚(331)は、仏教的な作善として法華経などを埋納した里山の聖地で、鍋谷川中流の八里向山中世墓群(317)は、得橋郷の在庁「弥里介」の奥津城と一族の葬地とみられる。

中世後期の室町時代から戦国時代（14世紀末～16世紀後半）になると、白江荘周辺の在地領主は、屋形の一部に堀割の開削をおこない、付随した町場では下駄や曲物職人などの集住を進めた。また交通の要衝となる丘陵地では、戦時の城郭が整備され、波佐谷の高台には、本願寺一家衆寺院の拠点として土塁を構えた城郭寺院(367)が造営された。他方、街道が通過していた本折では、特産の絹織物で知られた町場が、幸町遺跡(197)の周辺にも広がり鍛冶職人の集住が見られた。さらに、中世後期の出土品を見ると、香炉や花瓶などの仏具、火鉢や行火の暖房具、茶の湯の広がりを示す茶道具の茶壺・風呂・茶臼などの用具が新たに確認できる。これは日常生活文化と嗜好性が、急速に広まったことを示している。

## 6 近世～現代

小松城(195)が史料に初めてみえるのは天正11年(1583)で、村上頼勝の在城が知られる。その後慶長3年(1598)に丹羽長重が入城し、慶長5年からは前田氏の所有となった。寛永16年(1639)、前田利常は隠居の地を小松に定め、城と城下の整備に着手している。いま遺構として確認できる小松城は前田時代のものとみられる。小松城の発掘調査は、大きな面積では小松高校改築に伴うものがある。同校は本丸、二の丸に位置を占めており、数次にわたる調査によって、本丸側石垣、二の丸石垣のほか結桶を内部施設とする井戸群、掘立柱建物などを検出した。明治4年(1871)に始まった破却により遺構はほとんど残っていないとみられていた小松城であるが、石垣の基部や井戸が地中に残存することが各所で確認された。また、住宅建設等ともなう数か所の発掘調査で、三の丸や中土居の石垣や堀が確認された。このうち、市立博物館収蔵庫建設ともなう調査では、絵図にみえない石垣が検出され、小松城の構造を再検討する知見が得られた。

利常入城ともなう藩士移住により町割が決まった城下では、大川遺跡(196-1)ではじめて大規模な発掘調査が行なわれた。北国街道の両側に形成された泥町と呼ばれた城下の町屋敷で、街道に面して連なる「短冊形」の屋敷が発掘された。町屋敷のひとつから古九谷窯製品がまとまって出ており、焼物商の存在が想定されることとなった。梯川を渡った北国上街道は西に方向を変え泥町に向かう直線道となるが、ここでは街道および新町堀に架けられた梯小橋の橋台石垣を発掘した。街道は17世紀前半以降、数次にわたって路盤がかさ上げされており、路面には玉砂利が敷かれていた。小橋の橋台石垣は凝灰岩の切石を積んだもので、小松町の玄関口にふさわしい堅固な造りとなっている。

若杉窯(245)と八幡若杉窯(254)は能美郡における再興九谷を代表する窯である。若杉窯は文化8年(1811)から磁器生産を開始し、文化13年に藩営になり生産を拡大した。陶器を主体とし、染付、白磁、青磁、色絵などの焼成を行っていたが、天保7年(1836)、火災により機能を失った。同年、隣接する八幡村で開窯したのが八幡若杉窯で、ここから出た碗にある「天保七」の紀年銘は転載・開窯を裏付ける資料となっている。



## 引用文献

市史編集委員会 2020『新修小松市史』資料編 17 考古 より、第一章～第八章の概説の一部を抜粋掲載

第1表 遺跡地名表

No	名称	種別	時代	備考
1	柴山水成日塚	日塚	縄文	
2	柴山中世墓	その他(墓)	中世	
3	柴山神社遺跡	散布地	不詳	
4	柴山城跡	城跡跡	中世	
5	一日A遺跡	散布地	古墳～古代	
6	柴山日塚	日塚・集落跡	縄文	加賀市指定史跡
		集落跡	古代	
7	柴山水成遺跡	日塚	弥生	柴山日塚遺跡A地点に所在する日塚
8	柴山日塚遺跡(A地点)	集落跡	弥生	
	柴山日塚遺跡(B地点)	集落跡	古代～中世	柴山日塚に隣接する地点
9	山の上遺跡	散布地	縄文	
10	佐美跡塚	跡塚	不詳	
11	日本跡塚	跡塚	不詳	
12	合河遺跡	散布地	不詳	
13	動機遺跡	散布地	古代(平安)	
14	福蔵遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生～中世	
15	郡もどり地蔵遺跡	散布地	古代	
16	動機塚跡	塚跡跡	中世(室町)	
17	榎井衛生センター遺跡	散布地	古代	
18	榎井遺跡	散布地	古代	
19	分校A遺跡	散布地	古墳	
20	分校B遺跡	散布地	古代(平安)	
21	分校山王古墳群	古墳	古墳	円墳2
22	分校カシ山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳3、円墳10、方墳6
23	分校高山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	行越A遺跡	散布地	縄文	
25	行越B遺跡	散布地	弥生	
26	行越城跡	城跡跡	中世(安土桃山)	
27	願見町西遺跡	集落跡	弥生～中世	
28	茶臼山A遺跡	散布地	不詳	
	茶臼山B遺跡	散布地	縄文	
29	茶臼山原北遺跡	その他(祭祀)	古代(奈良)	
30	月津オカ遺跡	散布地	古墳・中世	
31	月津A遺跡	散布地	古代(奈良)	
32	願見町遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	古墳～中世	
33	願見神社前A遺跡	散布地	古墳	願見町遺跡の一部
34	願見神社前B遺跡	散布地	縄文	願見町遺跡の一部
35	中町遺跡	散布地	縄文・不詳	
36	月津新遺跡	散布地	縄文・古代	
37	念仏林遺跡	集落跡	縄文	
38	念仏林山遺跡	集落跡	弥生～古墳	
39	矢田新遺跡	集落跡	古代(奈良)	
40	刀何理遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	古代～中世	
41	矢田A遺跡	散布地	縄文	
42	矢田B遺跡	散布地	古墳	矢田野遺跡の一部
43	矢田野遺跡	集落跡	古墳～古代	
44	白のぼろ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	左門殿古墳	古墳	古墳	円墳
46	茶臼山古墳	古墳	古墳	円墳、2段築成
47	興宗寺古墳	古墳	古墳	円墳
48	念仏塚古墳	古墳	古墳	円墳
49	念仏林古墳	古墳	古墳	円墳、本志粘土室
50	丸山古墳	古墳	古墳	円墳、切石櫛形六式石室、家形石槨
51	狐森塚古墳	古墳	古墳	円墳又は前方後円墳
52	矢田原塚古墳群	古墳	古墳	円墳14、前方後円墳3、不明1、本志粘土室
53	百人塚古墳	古墳	古墳	円墳
54	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳3、前方後円墳1
55	矢田野エタリ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	動機塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	待津石山古墳	古墳	古墳	円墳、切石櫛形六式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	円墳、切石櫛形六式石室
59	矢田野神社前遺跡	散布地	古代(平安)	
60	下栗津A 櫛穴部	櫛穴部	不詳	櫛穴7～8
61	越後塚	跡塚	不詳	

No	名称	種別	時代	備考
62	上栗津 B 横穴	横穴墓	不詳	横穴 2
63	高遺跡	集落跡	弥生～中世	
64	島 B 遺跡	散布地	古代	
65	島 C 遺跡	散布地	古墳	方墳 7
66	苅津 A 遺跡	散布地	縄文	
67	苅津 B 遺跡	散布地	縄文	
68	苅津 C 遺跡	集落跡	古墳	
69	矢崎宮のト遺跡	集落跡	縄文～中世	
70	華跡遺跡	集落跡	古墳～古代	
71	串カンノヤマ A 遺跡	散布地	古代(奈良)	
72	串カンノヤマ B 遺跡	散布地	古墳	
73	串カンノヤマ C 遺跡	散布地	古墳	
74	今江ノ山遺跡	散布地	弥生	
75	狐山遺跡	集落跡	古墳	
76	土百遺跡	散布地	縄文	
77	今江五丁目遺跡	集落跡	縄文・古墳	
78	五所塚貝塚	貝塚	縄文	
79	矢崎 B 古墳	古墳	古墳	
80	狐山古墳	古墳	古墳	
81	土百古墳	古墳	古墳	
82	跡手塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳, 小城市指定史跡
83	今江横穴	横穴墓	不詳	横穴 4
84	藤本塚遺跡	城跡	中世	十部と曲輪の一部
85	串古宮跡	生産遺跡	中世末	知見
86	日本瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	種瓦窯
87	大飯遺跡	集落跡	古代～中世	古代北陸道
88	浅井輪古戦場	その他の跡	中世末	県指定史跡
89	林廻寺跡	社寺跡	不詳	
90	林廻跡 (林タカヤマ古宮跡群)	生産遺跡	古墳	須恵窯 3, 南加賀古宮跡北群
	林廻跡 (林オオカミダニ古宮跡群)	生産遺跡	古墳	須恵窯 2, 土師器坑 1, 南加賀古宮跡北群
	林廻跡 (林製鉄跡)	生産遺跡	古代	製鉄が 2, 製炭 4, 銅冶が 2, 鋳型坑 2
91	戸津 5・12 号窯跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵窯 2, 南加賀古宮跡北群
	戸津シノザワ製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	製鉄が 4, 製炭 3
92	戸津古宮跡群	生産遺跡	古代, 中世(鎌倉)	須恵窯 36 (瓦陶兼窯 5), 土師器坑 19, 製炭 2, 加賀窯 1, 南加賀古宮跡北群
93	戸津六ツケ古宮跡群	生産遺跡	古墳	須恵窯 7, 製炭 1, 南加賀古宮跡北群
94	戸津 1 号窯跡	生産遺跡	古代(平安)	製炭窯
95	戸津ワタニ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄が 1, 製炭 1
96	戸津シウガダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵窯 1, 製鉄が 1, 南加賀古宮跡北群
97	戸津 2 号窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
98	戸津アサヤマ古宮跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
99	戸津オオタニ遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵窯 2, 製鉄が 1, 南加賀古宮跡北群
100	二ツ製一鹿山古宮跡群	生産遺跡	古墳	須恵窯 12, 土師器坑 28, 製鉄が 1, 製炭 2, 南加賀古宮跡北群
101	二ツ製豆畑山古宮跡群	生産遺跡	古墳・古代(平安)	須恵窯 4
102	二ツ製種池古宮跡群	生産遺跡	古墳・古代(平安)	須恵窯 12 (須陶兼窯 2, 瓦陶兼窯 2), 南加賀古宮跡北群
103	二ツ製ミノケハラ古宮跡群	生産遺跡	古代	土師器坑 4, 須恵窯, 南加賀古宮跡北群
104	二ツ製丸山古宮跡群	生産遺跡	古墳	須恵窯 3, 南加賀古宮跡北群
105	二ツ製峠山古宮跡群	生産遺跡	古墳	須恵窯 8, 南加賀古宮跡北群
106	二ツ製東山古宮跡群	生産遺跡	古墳	須恵窯 5, 南加賀古宮跡北群
107	二ツ製松並遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵窯 1, 製炭 1, 南加賀古宮跡北群
108	二ツ製横川遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵窯 1, 製炭 1, 南加賀古宮跡北群
109	二ツ製新谷古宮跡群	生産遺跡	古代(平安末)	須恵窯 2, 加賀窯 1, 南加賀古宮跡北群
110	二ツ製栗谷 1～2 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
111	二ツ製栗谷古宮跡群	生産遺跡	古代	須恵窯 6 (瓦陶兼窯 1), 南加賀古宮跡北群
112	二ツ製カセイ古宮跡群	生産遺跡	不詳	須恵窯 2, 南加賀古宮跡北群
113	矢田野向山古宮跡群	生産遺跡	古代(奈良)	須恵窯 6, 南加賀古宮跡北群
114	矢田野長山遺跡	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須恵窯 4, 加賀窯 2, 製鉄 3, 南加賀古宮跡北群
115	籠宮 A 遺跡	散布地	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須恵窯 6, 加賀窯 2, 南加賀古宮跡北群
116	籠宮 B 遺跡	散布地	中世	
117	小天王谷 1～2 号窯跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯 2
118	小天王谷 1 号製鉄跡 (天王山 1 号製鉄跡)	生産遺跡	不詳	製鉄が 1
119	小天王谷 2～3 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
120	大久保谷 1～2 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
121	大久保谷古宮跡	生産遺跡	不詳	
122	那谷 1 号窯跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀窯
123	矢田野カナクダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 3
124	矢田野 1～2 号横穴	横穴墓	不詳	
125	那谷 1～5 号横穴	横穴墓	不詳	
126	那谷 6 号横穴	横穴墓	不詳	
127	那谷中山古製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄が 3
128	上飯屋ユルイデン製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄が 2
129	上飯屋ジャモンダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵窯 4, 製炭 3, 南加賀古宮跡北群

No	名称	種別	時代	備考
130	上瓦屋サンマイダニ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須原第4～5、製鉄2、竈穴1、地下式瓦1、南加賀古窯跡北部
131	上瓦屋サンマイダニヤマ古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代(奈良)	須原第4、南加賀古窯跡北部
132	上瓦屋キダン古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)	須原第2、南加賀古窯跡北部
133	上瓦屋トリダニ古窯跡群	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須原第2、加賀第1、製鉄1、南加賀古窯跡北部
134	上瓦屋オシマヤマ古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀第4、製鉄1
135	戸津1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄1・2
136	戸津本遺跡	社寺跡	中世(室町)	
137	戸津八幡神社前遺跡	敷布地	古代～中世	
138	上瓦屋原谷口遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄1
139	馬場ニカヤマ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須原第1、製鉄1、南加賀古窯跡北部
140	馬場タニヤマ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄1
141	上瓦屋小ウジヨウヤマ遺跡	生産遺跡、社寺跡、墳墓	古代(平安)～中世	須原第5、製鉄1、南加賀古窯跡北部
142	上瓦屋ハカランダニ古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀第2
143	園上谷古窯跡群	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀第10、製鉄1・2
144	西原フクヤシキ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
145	西原ムカイヤマカナクノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
146	牧口ネドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄2
147	牧口DⅡ墓跡	墳墓	中世(鎌倉)	牧師塚比定地
148	白山田下ヤマ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄が複数
149	井口神社製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	井口エドノウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	井口遺跡	敷布地	不詳	
152	林八幡神社跡	社寺跡	中世(鎌倉)	
153	林斎跡	城郭跡	中世	
154	津波斎神社遺跡	敷布地	中世	
155	津波斎ホツトジ遺跡	竈穴墓	中世(室町末)	地下式瓦6、2墓調査
156	大谷山荘跡	日屋	縄文	
157	小山田コガタニ遺跡	敷布地	不詳	龍潭敷布地
158	小山田ヌキト平製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄1・2
159	小山田オクサダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄1・2
160	津波斎ハクマイダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄1、製鉄窯複数
161	木場古墳群	古墳	古墳	門跡4
162	木場古墳	古墳	古墳	地元で池田城跡とされる
163	池田城跡	城郭跡	不詳	
164	木場温泉遺跡	敷布地	縄文	
165	木場A遺跡(木場遺跡H地区)	生産遺跡	古代(奈良)	製鉄1・4、製鉄窯2
166	木場B遺跡	敷布地	古代(平安)～中世	
167	木場C遺跡	敷布地	弥生	
168	木場遺跡A地区(1号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄窯3、龍潭敷布地
169	木場遺跡B地区(2号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄1・2、製鉄窯2
170	木場遺跡C地区(3号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
171	木場遺跡D地区(4号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄1、製鉄窯1
172	木場遺跡E地区(5号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
173	木場遺跡F地区(6号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
174	木場遺跡G地区(7号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄1
175	木場遺跡D地区(8号遺跡)	竈穴墓	不詳	竈穴1
176	大曲遺跡	敷布地	不詳	龍潭敷布地
177	長谷岡湯屋の山遺跡	敷布地	不詳	龍潭敷布地
178	三谷遺跡	敷布地	縄文	
179	三谷B遺跡	敷布地	弥生～古墳	
180	三谷下谷遺跡	不詳	不詳	墳丘又は塚
181	三谷大谷遺跡	集落跡	古代～中世	
182	三谷大谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄1、龍潭敷布地
183	蓮行寺城跡	城郭跡	不詳	小規模な郭跡か
184	蓮代寺ムコフヤマ製鉄跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	製鉄1、製鉄窯1
185	蓮代寺ガシウツタン遺跡	古墳	古墳	製鉄窯3、龍潭敷布地
186	蓮代寺A遺跡	敷布地	不詳	龍潭敷布地
187	本江古窯跡	生産遺跡	近世	製陶
188	蓮代寺窯跡	生産遺跡	近世末	西興八谷「蓮代寺窯」
189	蓮代寺瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	備瓦窯
190	蓮行寺跡	社寺跡	中世	西川氏菩提寺「蓮行寺」比定地
191	安仁遺跡	その他	不詳	熊取定史跡
192	安仁七鬼神社遺跡	敷布地	不詳	
193	安仁中世墓群	その他(墓)	中世(室町)	
194	安仁大塚古墳	不詳	不詳	横石塚とも墳丘の石石とも、現存せず
195	小松城跡	城郭跡	近世	本丸・二ノ丸・三ノ丸の一部、本丸跡行は小松市指定史跡
196-1	大川遺跡	町郭跡	近世	近世小松城下町・近町の町郭跡
196-2	東町遺跡	町郭跡	近世	近世小松城下町・東町の町郭跡
197	幸町遺跡	生産遺跡	中世(室町)	織造
198	多土神社境内遺跡	敷布地	中世(室町)	埋納跡出土地
199	本新屋跡	城郭跡	中世(室町)	本新氏居館伝承地
200	八日市地方遺跡	敷布地	縄文・中世	
		集落跡	弥生	環壕集落
201	上小松遺跡	敷布地	古代(平安)	
202	湖町遺跡	城郭跡	弥生	
203	柳川砥橋遺跡	敷布地	弥生	
204	柳川砥橋B遺跡	敷布地	弥生	

No	名称	種別	時代	備考
205	高田 A 遺跡	散佈地	古墳～古代	
206	高田 B 遺跡	散佈地	古墳	
207	御座遺跡	城跡	中世 (室町)	
208	銭座遺跡	集落跡	弥生～古代	一向一揆・頼朝七郎重頼伝承地
		集落跡	中世	
209	榎遺跡	散佈地	弥生～古代	
		集落跡	中世	
210	松葉遺跡	散佈地	縄文～弥生・中世	
		集落跡	古墳～古代	
211	長田遺跡	散佈地	弥生～古墳	
212	山田南遺跡	散佈地	弥生・古代 (平安)	
213	中ノ江遺跡	散佈地	古墳	
		集落跡	弥生～中世	
214	高堂遺跡	集落跡	弥生～中世	
215	野田アルカシキ遺跡	集落跡	中世	
216	小長野遺跡	散佈地	不詳	
217	小長野 B 遺跡	散佈地	弥生	
218	小長野 C 遺跡	集落跡	古代	
219	大長野 A 遺跡	集落跡	弥生～中世	
220	大長野 B 遺跡	散佈地	不詳	
221	牛島宮の古遺跡	集落跡	古代 (平安)	
222	千代平の古遺跡	集落跡	弥生～中世	
223	千代平のハンテ遺跡	集落跡	縄文～中世	
224	平田稲川遺跡	集落跡	弥生	
225	平田稲川 B 遺跡	散佈地	弥生	
226	白江稲川遺跡	集落跡	弥生・中世	
227	白江塚跡	城跡	中世 (室町)	白江新助墓伝承地
228	白江遺跡	散佈地	古墳～中世	漆野遺跡の一部
229	漆野遺跡	集落跡	弥生～中世	
230	一科遺跡	散佈地	縄文	
231	一科 B 遺跡	集落跡	弥生～古墳	
232	一科 C 遺跡	集落跡	弥生～古墳	
233	記憶坊跡	社寺跡	中世 (室町)	
234	千代・徳美遺跡	集落跡	古墳～中世	
		散佈地	縄文～弥生	
235	千代オオキダ遺跡	集落跡	弥生～中世	
		古墳	古墳	
236	千代小野町遺跡	散佈地	古墳	方墳 6
237	千代城跡	城跡	中世 (室町)	
238	千代本村遺跡	散佈地	古墳	
239	織地遺跡	散佈地	縄文	
240	佐々木遺跡	集落跡	古代	財氏居宅跡 (奈良)
241	佐々木ノノウツ遺跡	集落跡	弥生～中世	
242	佐々木アサハタケ遺跡	集落跡	弥生～中世	
243	佐々木アサハタケ B 遺跡	集落跡	奈良・平安	
244	打越遺跡	散佈地	古代	
245	若杉空跡	生産遺跡	近世末	西興九谷「若杉窯」、連立式登窯
246	古竹遺跡	集落跡	弥生～中世	
247	古竹 B 遺跡 (古竹遺跡 19 地区)	散佈地	古墳	旧河邊の集落
248	古竹 C 遺跡	集落跡	弥生～中世	
249	千本野遺跡	散佈地	縄文	方墳 8
		古墳	古墳	
250	千本野 旧 遺跡	集落跡	古墳	
		古墳	古墳	
250	櫛生 1 号墳	古墳		所在不詳、現存するのは現代残土の山
251	釜谷古墳・釜谷 2 号墳	古墳	古墳	切石積横穴式石室
252	若杉オソボ山 1 号墓跡	生産遺跡	古墳	遺品発露
253	浄水寺跡	社寺跡	古代～中世	創建は加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
		散佈地	縄文	
254	八幡遺跡	集落跡	弥生～古墳・古代 (奈良)・中世 (鎌倉)	
	その他の墓	古墳 (平安)	古墳	土坑墓
	八幡古墳群	古墳	古墳	円墳 8、本志志土室
	八幡若杉空跡	生産遺跡	近世末	西興九谷「八幡若杉窯」、八幡 6 号墳を隔平して築いた連立式登窯
255	荒木田遺跡	集落跡	古墳～中世	
256	軒倉西芳寺遺跡	集落跡	縄文～中世	
257	大谷口遺跡	散佈地	弥生	
258	軒倉遺跡	散佈地	弥生～中世	
259	亀山遺跡	生産遺跡	古墳	玉作
260	軒倉中世墓群	その他の墓	中世 (室町)	集石墓 9
261	軒倉庵寺	社寺跡	古代 (平安)	大興寺伝承地
262	西芳寺遺跡	社寺跡	古代 (平安)	西芳寺伝承地
263	古府しのまち遺跡	集落跡	弥生～中世	
264	古府遺跡	集落跡	古代 (平安)	
265	古府アンドン遺跡	散佈地	古代 (平安)	
266	十九堂山遺跡	社寺跡	古代 (平安)	加賀国分寺指定地
267	十九堂山中世墓群	その他の墓	中世 (室町)	
268	古府橋穴	不詳	不詳	
269	古府シマ遺跡	散佈地	古代 (平安)～中世	

No	名称	種別	時代	備考
270	南野台遺跡	散布地	縄文	
271	小野遺跡	集落跡	古代(平安)	加賀国府所在地の一隅
272	小野スズノ井遺跡	集落跡	古代(平安)	加賀国府所在地の一隅
273	小野宮跡	生産遺跡	近世末	西興九谷「小野宮」
274	前田利常公塚塚	その他の墓	近世	前田利常公が茶屋に付された地とされる
275	樋田の虫塚	その他	近世末	害虫の排泄物と駆除方法を記した石柱、小松市指定史跡
276	樋田ミヤケノ遺跡	散布地	不詳	
277	樋田ミヤケタン遺跡	散布地	不詳	
278	樋田ウラムキ遺跡	散布地	古代～中世	
279	樋田フルカフ遺跡	散布地	古墳	
280	宮古寺屋敷遺跡	散布地	縄文・中世(室町)	
281	樋田遺跡	散布地	古代	
282	樋田塚	不詳	不詳	
283	樋田後山古墳群	古墳	古墳	円墳9、木棺直葬、木芯粘土管
284	樋田山古墳群	古墳	古墳	円墳12、方墳4
285	餅苜原所古墳	古墳	古墳	円墳
286	河山遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落、河山山10～12号墳が重層
		その他の墓	古代(奈良)	大葬墓、河山山1号墳の西側に所在
287	河山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳2、前方後方墳2、円墳22、方墳34、不明1、木棺直葬、木芯粘土管、切石積横穴式石室
	河山横穴	横穴墓	不詳	地下式(Ⅱ)、河山山54号墳の南に開口
288	河山山1号墳跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・河山山支群、河山山60号墳の北西斜面に所在
	河山山古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・河山山支群
289	河田B遺跡	散布地	縄文・古代(奈良)	
290	河田C遺跡	散布地	不詳	
291	下八里横穴部	横穴墓	不詳	地下式(Ⅱ)6、横穴1、不明1、3地点で計8基
292	穴堀横穴部	横穴墓	不詳	横穴2基
293	上八里横穴部	横穴墓	中世(室町)	横穴11基
294	上八里中世墓跡	その他の墓	中世(室町)	
295	上八里A遺跡	散布地	縄文・古代(平安)	
296	上八里B遺跡	散布地	古代(奈良)	
297	上八里C遺跡	横穴墓	古墳	
298	上八里D遺跡	散布地	古代(奈良)	横穴2基
299	上八里1号墳跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・河山山支群
300	上八里2号墳跡	生産遺跡	不詳	地下式窯窯、能美古窯跡南群 八里・河山山支群
301	谷内横穴	不詳	不詳	
302	河田唐遺跡	散布地	縄文・中世	
303	下田地割遺跡	散布地	不詳	
304	佐野A遺跡	散布地	弥生	
305	佐野B遺跡	散布地	古墳	
306	佐野八反田遺跡	散布地	古代	
307	狭野神社前遺跡	散布地	古代(平安)	
308	河田山ト遺跡	散布地	縄文・古代(平安)	
309	河田山古墳群	古墳	古墳	円墳7
310	八里向山A遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落
311	八里向山B遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		社寺跡	古代(奈良)	加賀国府・国分寺周辺山内寺院群の一
		散布地	旧石器～縄文・古代(奈良)	
312	八里向山C遺跡	集落跡	弥生	
		古墳	古墳	前方後方墳1、木棺直葬
313	八里向山D遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生～古墳	
		古墳	古墳	方墳2、木棺直葬
314	八里向山E遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		古墳	古墳	方墳1
		集落跡	古代	
		散布地	縄文	
315	八里向山F遺跡	古墳	古墳	円墳10、木棺直葬
		その他の墓・横穴墓	中世(室町)	集石墓1、横穴3
316	八里向山G遺跡	散布地	弥生・古代(平安)	
317	八里向山H遺跡	その他の墓	中世(鎌倉)	集石墓群、96基調査
318	八里向山I遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・泉台支群
319	八里向山J遺跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯、能美古窯跡南群 八里・泉台支群
320	里川A遺跡	生産遺跡	不詳	製硯堂2、製硯坑約20
321	里川B遺跡	生産遺跡	不詳	製硯堂
322	里川C遺跡	生産遺跡	不詳	製硯堂
323	里川D遺跡	散布地	縄文	
324	里川E遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国府・国分寺周辺山内寺院群の一
325	里川F遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国府・国分寺周辺山内寺院群の一
326	里川G遺跡	散布地	不詳	
327	遊泉寺・クボタA遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
	遊泉寺・クボタB遺跡	散布地	古代(平安)～中世	社寺(開明寺)又は城館伝承地
328	立明寺古窯跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯(瓦陶窯)
	立明寺古墳	古墳	古墳	古代墳墓の可能性も
329	開明寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八咫、複数ある伝承地の一
330	遊泉寺遺跡	散布地	縄文	

No	名称	種別	時代	備考
331	宮の奥経塚	経塚	平安～鎌倉	塚5基
332	涌泉寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院、敷地ある伝承地の一
333	常徳寺跡	社寺跡	中世(室町)	一向一揆・宇田景徳の居城とも
334	鶴田塚跡	城館跡	不詳	一向一揆・宇田景徳の居城伝承地
335	鶴田横穴	不詳	不詳	地下式院?
336	仏大寺仏陀寺跡	社寺跡	中世	
337	仏大寺とうの池古墳	古墳	古墳	
338	仏生寺跡	社寺跡	中世	
339	仏生寺塚	経塚	中世	
340	ブッシュウジヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳2、木心墓1室
341	中宮B遺跡	集落跡	古墳～中世	
342	(左)長寛寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院、地名伝承のみ
343	中宮C遺跡	散布地	古代(平安)～中世	
343	中宮遺跡・岩瀬遺跡	散布地	縄文	
343	岩瀬上野遺跡	散布地	旧石器	
344	長寛寺中世墓跡	その他の墓	中世	
345	赤穂谷口遺跡	散布地	縄文	
346	松の木谷横穴群	不詳	不詳	存在自体が不明、5基間1とされる
347	赤穂谷スズノキ谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴9、地下式院4
348	吾輿寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院
349	岩瀬城跡	城館跡	中世	
350	小山城跡	城館跡	中世	
351	仏ヶ野城跡	城館跡	中世	
352	仏前原城跡・仏前前庭	その他の墓	古代(平安)	小松市指定史跡
353	老口遺跡	散布地	縄文	
354	老口中里墓跡	その他の墓	中世	
355	下妻口横穴群	横穴墓	不詳	横穴3
356	岩倉城跡	城館跡	中世(室町)	
357	中ノ林北城跡	城館跡	中世	
358	覆山城跡	城館跡	中世	
359	橋の木山遺跡	散布地	縄文	
360	呂降寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
361	薄田寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八院
362	松谷寺	社寺跡	古代(奈良)	8世紀前半に築る古代山林寺院
362	松谷寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
363	平野塚跡	城館跡	中世(室町)	一向一揆・平野景満城伝承地
364	江島城跡(山神山跡跡)	城館跡	中世(室町)	
365	蓮花寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
366	波佐谷遺跡	散布地	中世(室町)	
367	波佐谷城跡	城館跡	中世(室町)	一向一揆・宇津呂丹波守忠城伝承地
367	(左)波佐谷松岡寺跡	社寺跡	中世(室町)	
368	波佐谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴13、地下式院5
369	六橋遺跡	集落跡	縄文	
370	麻島尾谷遺跡	散布地	縄文	
371	松岡寺跡	社寺跡	中世(室町)	
372	大石山横穴群	横穴墓	不詳	横穴3
373	こたい谷横穴	横穴墓	不詳	横穴1
374	穴山横穴	横穴墓	不詳	横穴1
375	池城経塚	経塚	中世(室町)	
376	曾山横穴	横穴墓	不詳	横穴1
377	布庭遺跡	散布地	縄文	
378	キノ野遺跡	散布地	縄文	ほかに寺院跡の伝承あり
379	羅宮ノ城跡	城館跡	不詳	
380	羅宮ノ白山神社遺跡	横穴墓	中世	
381	和気山山谷寺遺跡	生産遺跡	古代(平安)	土師器焼成坑、能美古窯跡南群、後山山谷支群
382	和気山山谷2号窯跡	生産遺跡	古代(奈良末～平安)	須恵器窯、能美古窯跡南群、後山山谷支群
383	和気ノ和気古窯跡	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯、能美古窯跡南群
384	和気近世窯跡	生産遺跡	近世	
385	和気天口A遺跡	散布地	縄文	
386	和気公文塚遺跡	城館跡	不詳	
387	和気中和気古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群、後山山谷支群
388	慮字渡城跡	城館跡	中世	
389	慮字渡山横穴群	横穴墓	不詳	
390	寺島古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群
391	寺島城跡取古墳	古墳	古墳	
392	瀬谷寺跡	社寺跡	不詳	
393	瀬谷中世墓群	その他の墓	中世	
394	瀬谷横穴	横穴墓	不詳	
395	瀬谷塚跡	城館跡	不詳	

## 第二章 漆町遺跡金屋地区発掘調査

### 第1節 調査に至る経緯

平成24年3月22日、小松市金屋町における梯川河川改修工事に伴い、個人住宅3軒の立ち退き移転先（調査の際はそれぞれA区・B区・C区と呼称）について、個人B（以下、依頼主B=B区住宅建て主、A区・C区も同様）から協議前の事前相談を受けた。移転先は、周知の埋蔵文化財包蔵地「漆町遺跡（金屋サンバンワリ地区）」の範囲に含まれる旨を伝え、次年度に向けて協議を継続することで合意した。

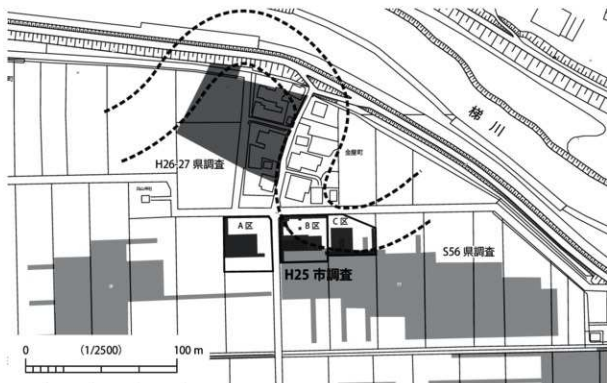
平成25年3月4日付で依頼主A～Cの3名より協議書と試掘依頼書の提出を受け、平成25年3月12日・同14日・同15日にかけて試掘調査を実施した。その結果、区域内に設定した試掘トレンチから埋蔵文化財が確認された（第6図）。この結果を以て、3月19日付で依頼主3名に適切な保護措置が必要な旨を通知した。

協議の結果、工事計画のうち、3軒ともに地盤改良工事が地下の埋蔵文化財に影響を与えるものと判断されたため、該当する範囲を対象に発掘調査による記録保存を行うことで合意。文化財保護法第93条に基づく発掘届の提出を受けるとともに、協定書を交換してA区及びC区は8月26日、B区は9月23日に発掘調査に着手した。

### 第2節 調査の経過

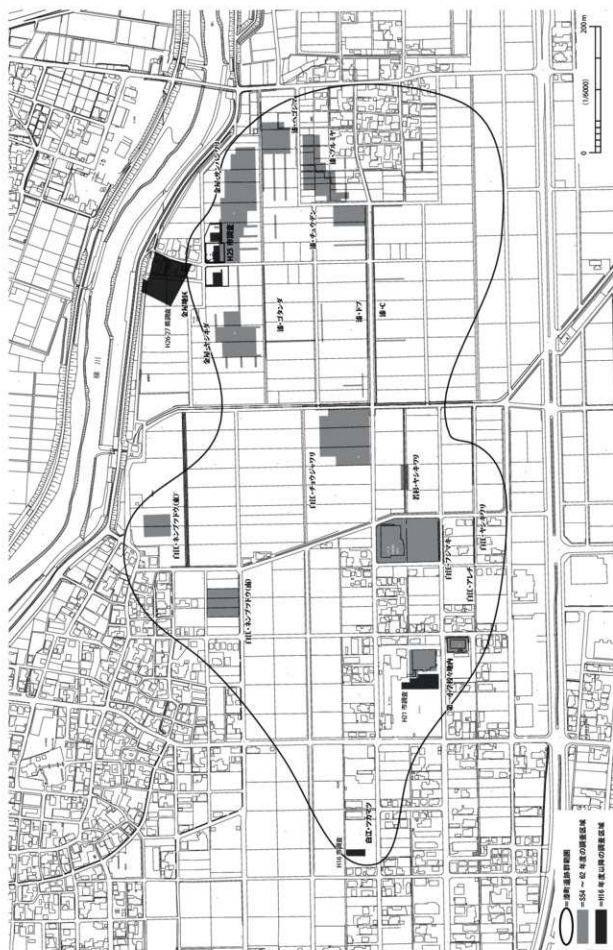
#### 1 調査の方法

前述のとおり個人住宅3軒をA区～C区の3調査区に振り分け、国土座標に合わせた5m×5mのグリッドを設定し、南北にA～G、東西に01～22のグリッド番号を付した（第7図）。概ねA

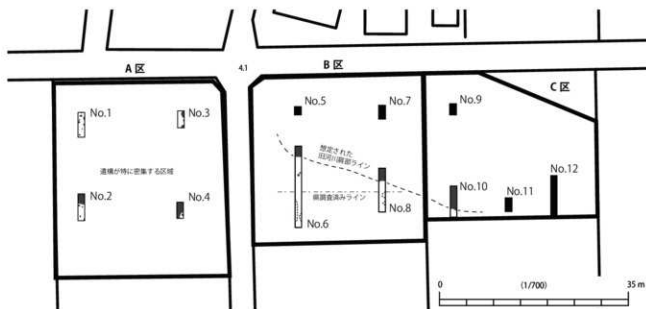


第4図 調査区位置図

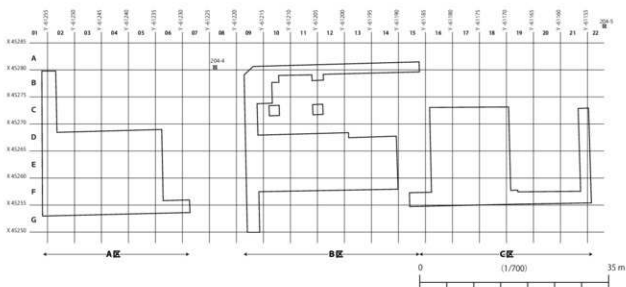




第5図 進捗範囲と調査履歴



第6図 試掘調査概略図



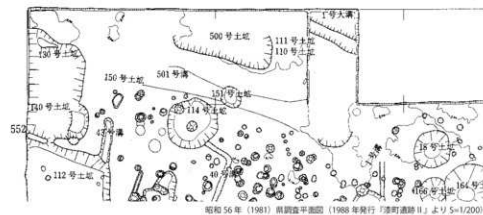
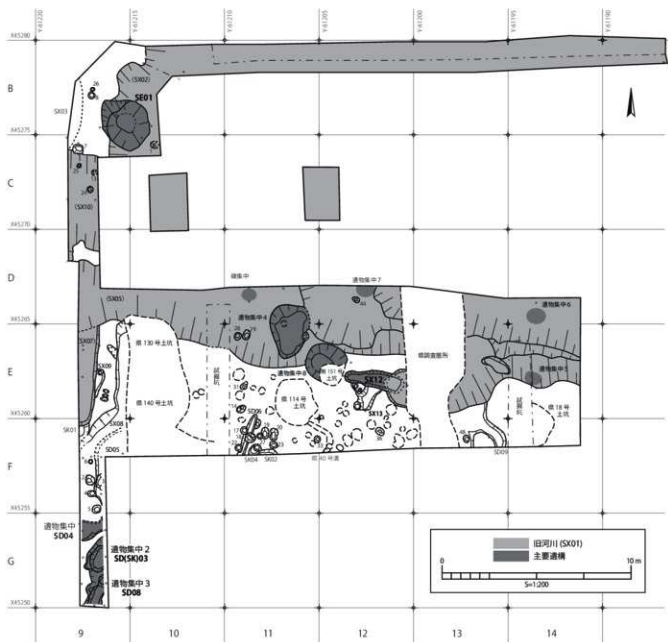
第7図 グリッド配点図

区はA01～G07グリッド、B区はA09～G15グリッド、C区はC16～F22グリッドの範囲に収まるが、本来B区の範囲であるF15・G15グリッドは掘削の連続性からC区に含めて報告する。

各調査区とも重機による表土除去後に、排水のための現場整備を行い、人力で遺構精査・遺構掘削を進めた。必要に応じて、写真撮影やセクション（土層断面）図及び平面図の作成等、記録作業を行った。図化作業は主に20分の1、50分の1の縮尺で対応した。写真撮影については、35mm一眼レフカメラでカラー・モノクロ写真を記録し、メモ用にコンパクトデジタルカメラを使用した。

## 2 調査の経過

**A区** 平成25年8月26日より表土除去。9月5日より排水のための側溝整備と遺構精査を開始。9月13日より順次遺構掘削を進め、9月23・24日に追加の表土除去と側溝整備を行う。9月25日から本格的に遺構掘削を開始し、必要に応じて写真記録や遺構平面図・セクション図の作成を行っ



第8図 B区調査平面図(上)・県調査平面図(下)

た。本調査区は古墳時代前期～中世を中心とした集落跡として、3調査区のうちで最も遺構が密集していたため、多くの時間を費やした。12月17日より遺構掘削と並行して全体平面図の作成に着手し、12月24日に全ての作業を終えた。

**B区** 平成25年9月23日より表土除去を行い、側溝整備等の現場整備を開始。10月17日より調査員1名を増員して遺構精査を開始し、順次遺構掘削を進め、必要に応じて写真記録や遺構平面図・セクション図の作成を行った。特に北西部のSE01、南西部の遺物集中、中央部の旧河川(SX01)で多くの遺物を確認した。12月11日より遺構掘削と並行して全体平面図の作成に着手し、12月24日に全ての作業を終えた。

**C区** 本調査区は、試掘調査によって大半が旧河川(SX01)で占められていることが把握されていた。平成25年8月26日より表土除去。9月3日より排水のための側溝整備を行い、9月9日より遺構精査と旧河川(SX01)の断ち割り等で範囲確認。9月23・24日にはA区とともに追加の表土除去と側溝整備を行った。以後A区とB区の掘削作業に注力したが、11月8日より遺構精査を再開し、順次遺構掘削を進め、必要に応じて写真記録や遺構平面図・セクション図の作成を行った。11月30日より全体平面図作成に着手し、12月24日に全ての作業を終えた。

### 3 出土品整理の経過

平成27年度及び平成30年度以降、断続して出土品整理を行い、令和3年度に報告書刊行作業に至った。今回はB区の詳細成果報告を行い、A区ならびにC区については次回以降の報告とする。

## 第3節 B区調査の成果

### 1 遺跡と調査の概要

本遺跡は、能美低地を流れる梯川の中流域左岸に位置し、漆町・金屋町・白江町・若杉町の4町にまたがり、推定200,000㎡の広大な遺跡範囲を有する。昭和54～62年度(1979～1987)にかけて、県公害防除特別土地改良事業に伴い、石川県と小松市によって発掘調査が行われ、弥生時代後期から中世に至る複合集落遺跡として知られることとなった(第5図)。この調査で、全形が分かる木製花弁高杯の優品が出土したほか、出土土器の分析によるいわゆる「漆町編年」は、その後の北陸における古墳時代研究に大きな影響を与えている(石川県埋文1986)。昭和60・61年度には遺跡内にある第一小学校地内の体育館・プール建設に伴う発掘調査が行われ、平地式建物を含む建物群が検出された(小松市教委1987)。隣接した平成21年の校舎改築時の調査では、校地内における遺跡の広がり確認されている(小松市教委2010)。これらのほか市では個人住宅建設等の開発に伴い、協議・試掘調査・発掘調査に対応している。遺跡北辺では、平成26・27年度に今報告の調査原因にも関わる梯川改修工事に伴う発掘調査が行われた(石川県埋文2015・2016)。それまでの集落観とは異なり、室町時代後期～江戸時代初頭の鋳物生産工房跡が検出され、町名として残る「金屋」での鋳物師の生産活動が明らかとなった。

今報告における発掘調査は、先述のとおり個人住宅3軒の建設に伴うものである。工事区域に合わせて設定したA区～C区のうち、B区とC区は昭和56年度の県調査区「金屋サンバンワリ地区」の一部と重複する。その当時の調査成果や事前の試掘調査から、C区からB区へ流れる梯川の旧流路(旧河川SX01)の存在が想定され、実際の発掘調査でも両区で旧流路が確認され、その河川肩部周辺で井戸や遺物集中区域、廃棄土坑、溝等が検出された。旧流路はB区西側で大きく蛇行して北方へと流れ、平成26・27年度県調査区でさらに南へ蛇行してS字状のカーブを描くようである(石川県教委・埋文2018)。A区は遺構密集区となっており、建物跡や井戸、廃棄土坑、溝等が確認された。

## 2 井戸(水溜)

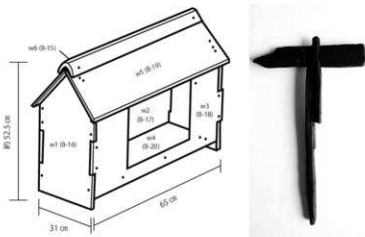
### SE01 (第10～18図)

SE01はB区北西、B9・10グリッド及びC9・10グリッドにまたがり、旧河川SX01の一部(SX02)と重なる箇所で見出された。長軸(南北)2.6m×短軸(東西)2.2mの平面不整形円形を呈し、北西側へ浅い張り出しを有する。深さは約1.3mで、円筒形に掘削される。覆土は、上層(1・2層)に河川埋積土に類する土質が堆積し、3層・5層・7層と下層に粘性の強い黒色土が溜まり、最下層は砂を含むオリブ系の土色となる。5層上面付近まで掘り下げた段階で多数の木製品が見出されたため、一旦掘削を止めて図化記録作業を行った。木製品には加工された板材が多く含まれ、かつ一部組み合う状況(指物構造)が観察されたため、当初これらを井戸枠材(横板組)と推測し、下部に井戸枠が残存することを想定しながら掘り進めた。しかし想定とは異なり、湧水準に達しないまま底面が見出され、その立ち上がり付近には部材を据えたようなわずかな痕跡(8-2層・8-4層、抜き取り痕)が確認された。念のため底面を断ち割った結果、さらに下層(11-1層付近)から湧水が認められた。これらの点から、水溜的な機能を有していた可能性が高い。

上層から中層にかけて認められた板材ほか木製品の大半は、検討の結果、井戸の地下施設に関わるものではなく、井戸(水溜)廃絶後に廃棄されたものと判断した。第13図～第17図にその一部を示した。w1～w5は当初井戸枠と推測した部材であるが、w1の上辺鋭角部やw3のコの字状の平面形等に違和感があり、w1とw3が組み合って出土した状況や各部材の木釘の位置から、第9図左のような平側が開く切妻屋根の家形木製品を復元するに至った。w1～w3は壁材で、w1は妻側、w2は平側背面、w3は平側正面となる。妻側材は1枚のみの出土であるが、平側材と3枚組手で組接着して木釘で固定していた状況がうかがえる。w4は床材で、小口面に壁材を固定した木釘痕が残る。床高は平側材の木釘位置から、地面からやや浮かせていたことが分かる。w5は屋根材で、1枚のみの出土であるが、短辺断面上部が斜めにカットされており、切妻屋根頂部で2枚の屋根材小口面を合わせるための意図と考えられる。また妻側材小口面に固定したことが想定される木釘痕が残る。w6はw1～w5よりも下層位で出土した部材で、寸法や木釘痕から同一構造物の一部=棟材であると判断した。この棟材が下層位にあるということは、本製品が最終的に屋根を下にして廃棄されたことを示すものかもしれない。w7とw8は第9図右のような状態で組み合わせ、w1～w5と重なるように出土したため、本製品に関わる部材と推測される。これらの部材にはスギの割材が用いられる。

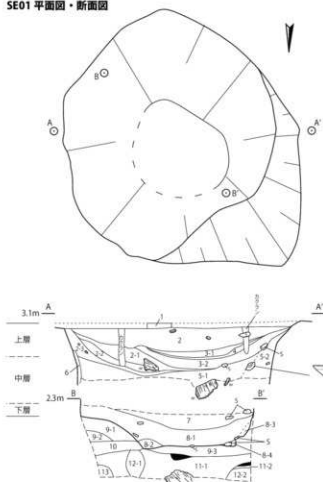
同一層位からは、横樋(w9)や杭(w10・w18・w19)のほか、残材や切断材等の加工材が多く認められたほか、付け木、箸状、曲物片、樹皮(いずれも未図化)等が出土している。また下層からは、井戸祭祀に伴う可能性がある齋串(w20)と漆器椀(w21)が出土した。

出土土器は、やや混在しながら概ね上層から中層にかけて古代の土器(第12図)、下層に古墳時代の土器(第11図)がまとめて認められた。古墳時代の土器には、



第9図 家形の復元図とw7・w8の出土状態

SE01 平面図・断面図



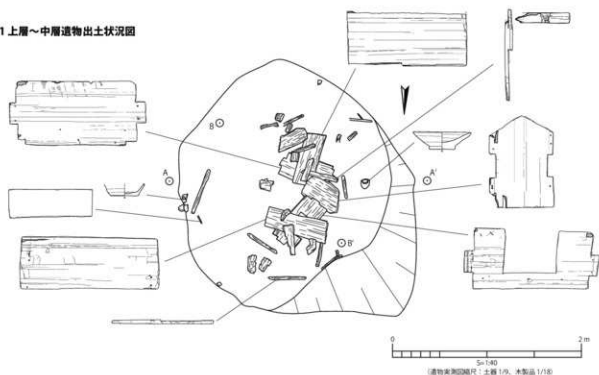
SE01土層註

層名: Hue V/C; 土色・土性: 備考

- 1: 10VRS/1; 灰褐色砂壤土; 表土。しまり強。砂礫含有 (径5mm以下)
- 2: 10VR4/2; 灰黄褐色壤土; しまり弱。酸化鉄多。黒褐色粘質BL含。炭化物少
- 2-1: 2より色調暗め; 2より可塑性強。酸化鉄含。炭化物含
- 2-2: 2-1に地山混 (径10cm以下) 含
- 2-3: 2-1より色調暗め
- 3-1: 2.5Y3/1; 黄褐色壤土; しまり弱。酸化鉄含。2を塊状に含有
- 3-2: 3-1に5-1が混在
- 4: 10VR6/3; に近い黄褐色粘壤土
- 5-1: 2.5Y4/1; 黄灰色粘壤土; しまり弱。酸化鉄含。3-1を塊状に含有。炭化物少
- 5-2: 5-1よりややしまり弱
- 6: 10VR6/3; に近い黄褐色粘壤土; 掘り方崩落土か
- 7: 2.5Y3/1 ~ 3/2; 黒褐色粘壤土; しまり弱。粘性強。地山混含。炭化物大含
- 8-1: 2.5GY3/1 ~ 4/1; 暗オリーブ灰色砂壤土; 7より粘性強。砂礫含有 (径5mm以下)。地山混含
- 8-2: 8-1より粘性強
- 8-3: 8-1よりややしまり弱
- 8-4: 8-1より色明るめ (2.5Y5/1) (以下、地山)
- 9-1: 7.5GY5/1 ~ 6/1; 緑灰色シルト; しまり強。縮砂含
- 9-2: 9-1に縮砂混在
- 9-3: 9-1より粘性強
- 10: 縮砂層
- 11-1: 7.5GY4/1; 暗緑灰色砂壤土; しまり弱。炭化物含。湧水あり
- 11-2: 11-1より粘性弱
- 12-1: 2.5Y3/3; 暗オリーブ褐色砂壤土; しまり弱。炭化物含。腐植質
- 12-2: 12-1より粘性やや強くしまり弱
- 13: 7.5GY4/1; 暗緑灰色シルト; しまり強

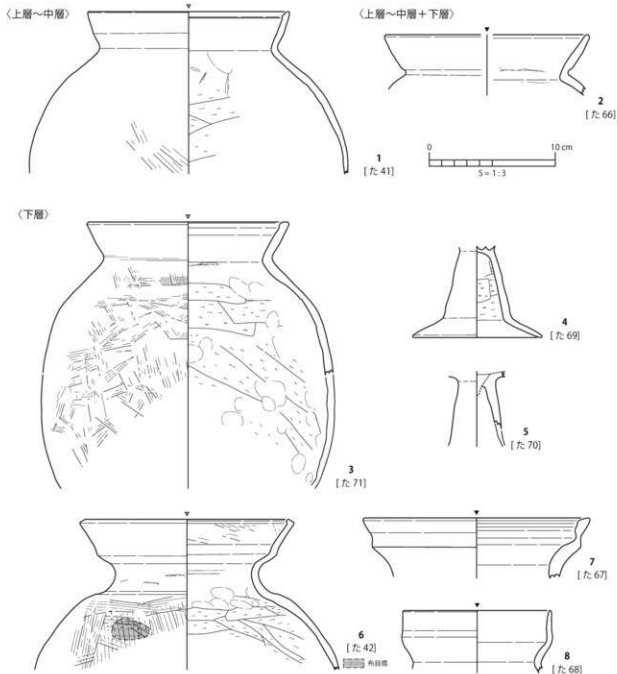
■ 炭化物層

SE01 上層~中層遺物出土状況図



第10図 B区 遺構実測図1

SE01 / 古墳時代の土器



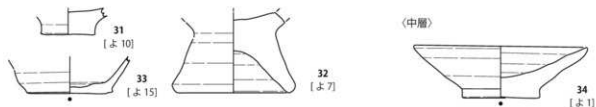
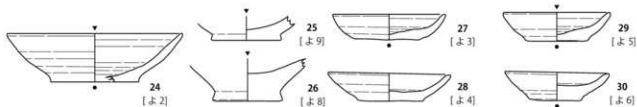
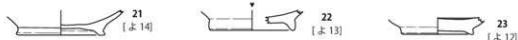
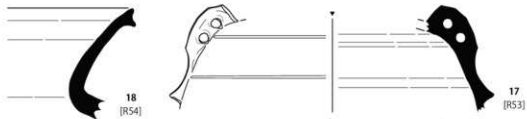
第11図 B区 遺物実測図1

布留系甕(1・3)、くの字口縁甕(2)、山陰系壺(6～8)、畿内系の屈折脚高杯(4・5)がある。布留系甕は口唇部肥厚が弱く、口径縮小、胴部上半のヨコハケ調整が顕著でない等、退化傾向にあり、後出するくの字口縁甕が出現する。山陰系壺は口縁部の屈曲や稜線がはっきりしたもの(6)に、やや弱く直線的な形態(7・8)が伴う。これらの組成は田嶋編年の古墳3様式I期(漆町12群期=5世紀前半)を示すものと考えられる。古代の土器は、田嶋編年の古代I期(7世紀前半)の須恵器環H蓋(9)を上限とし、中世I-II1期(11世紀後半～12世紀初頭)を下限とするロクロ系土師器(21～34)がまとまりをもつ。これらロクロ系土師器に38の白磁碗や40の灰釉陶器が伴うものと考え

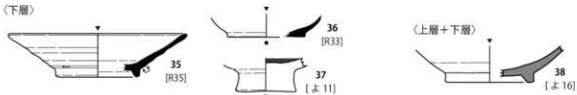


SE01 / 古代の土器

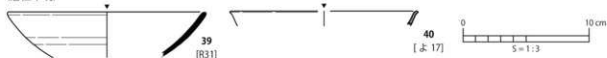
〈上層〉



〈下層〉



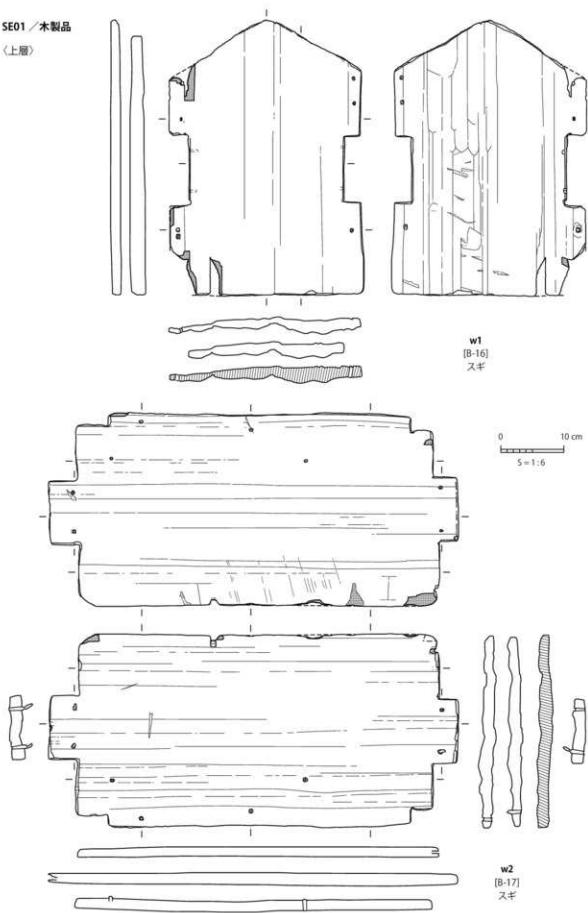
〈層位不明〉



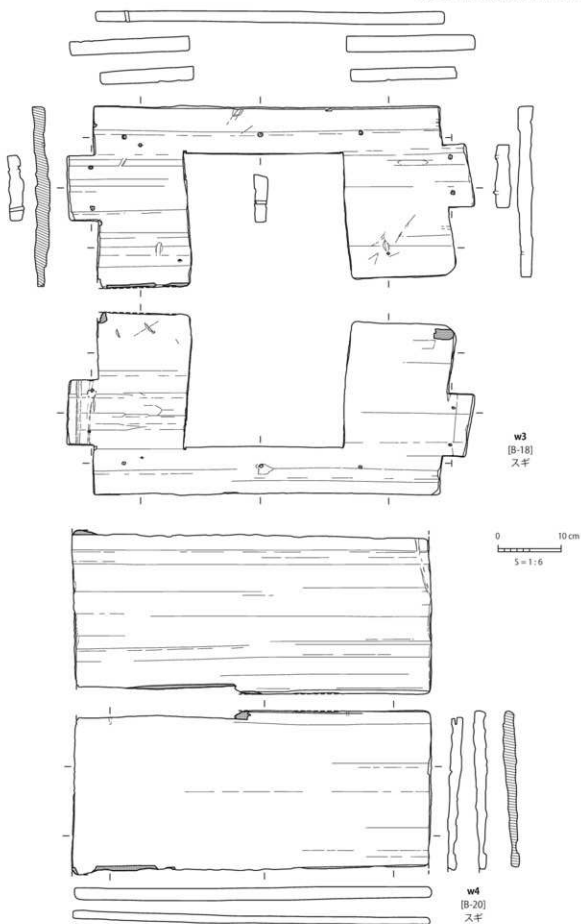
第12図 B区 遺物実測図2

SE01 / 木製品

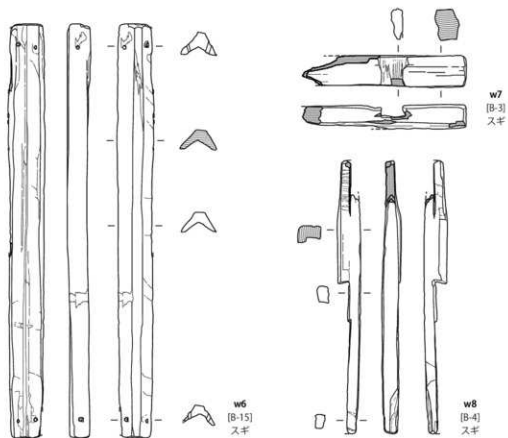
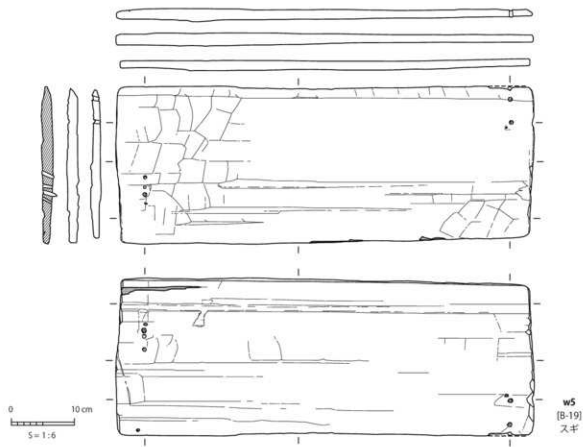
〈上層〉



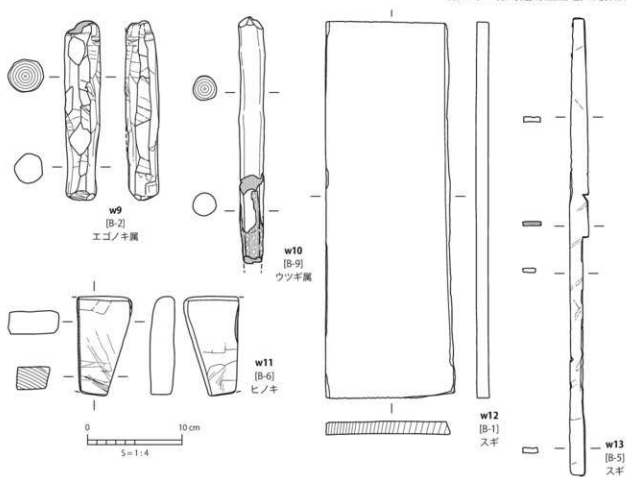
第 13 図 B 区 遺物実測図 3



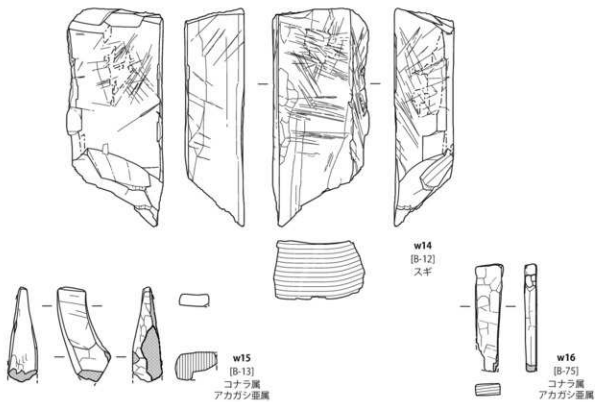
第14図 B区 遺物実測図4



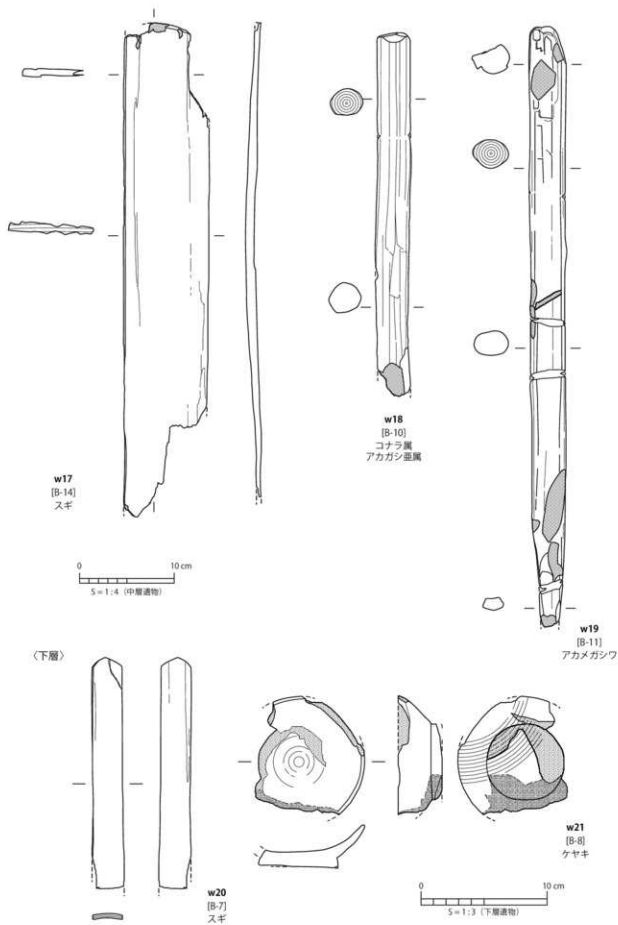
第15図 B区 遺物実測図5



〈中層〉

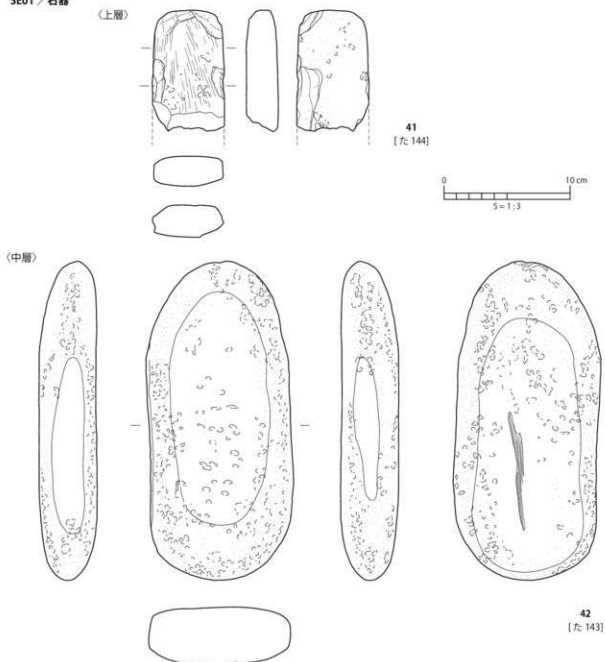


第16図 B区 遺物実測図6



第 17 図 B 区 遺物実測図 7

SE01 / 石器



第18図 B区 遺物実測図8

られる。

覆土中には礫が一定量含まれるが、その中には41の磨製石斧や42のやや扁平な円礫を利用した砥石がある。経緯は不明であるが、41は明らかな混入品である。

以上の出土遺物から、本遺構の時間的位置づけは、古墳時代中期に掘削→飛鳥時代～平安時代まで断続的に使用→廃絶（祭祀？）→平安時代末期に多量の木製品（家形木製品ほか）と土器の廃棄行為→埋没といった変遷が推測される。古墳時代中期から古代へ、数百年間にわたって開口した状態であったとは考えにくいと、再掘削したと思われるが、詳細を把握するには至らなかった。



### 3 土坑・溝

過去の調査や掘乱等が及んでいなかった南側擁壁区域（F09・G9 グリッド）で、古墳時代中期を中心とする土器群の廃棄遺構が確認された。調査区幅は約 1.5m と狭く、遺構の全容がつかめなかったため、表記にやや曖昧な部分がある。

#### 遺物集中 1 / SD04（第 20～22 図）

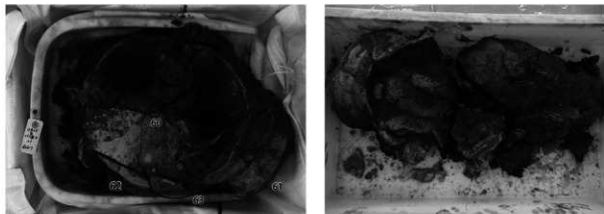
上位の土器溜まりを遺物集中 1 として掘り下げ、下位に SD04 を検出した。検出長 1.1～1.2m、上端幅 0.5～1m、検出面からの深さが 20～30cm の東西方向に延びる溝状遺構と推定される。上位出土遺物は古墳時代の土器が多く含まれるが、大半が破片で、2 次堆積の可能性が高い。図化できた出土遺物ははわずかで、布留系甕（45）と直口壺（43）、砥面と被熱面をもつ円礫片（44）がある。

#### 遺物集中 2・3 / SD(SK)03・SD08（第 20～26 図）

遺物集中 1 / SD04 と同様、上位の土器溜まり（遺物集中 2・3）を掘り下げると下位に 2 つの遺構が確認された。上位の遺物集中 2・3 は遺物の検出状況から 2 グループに分かれることが想定されたが、層位的に区分できず途中で一括した。下位の 2 遺構は上層堆積の一部を共有しており、別で掘削されながら同時期頃に埋没したものと推定される。

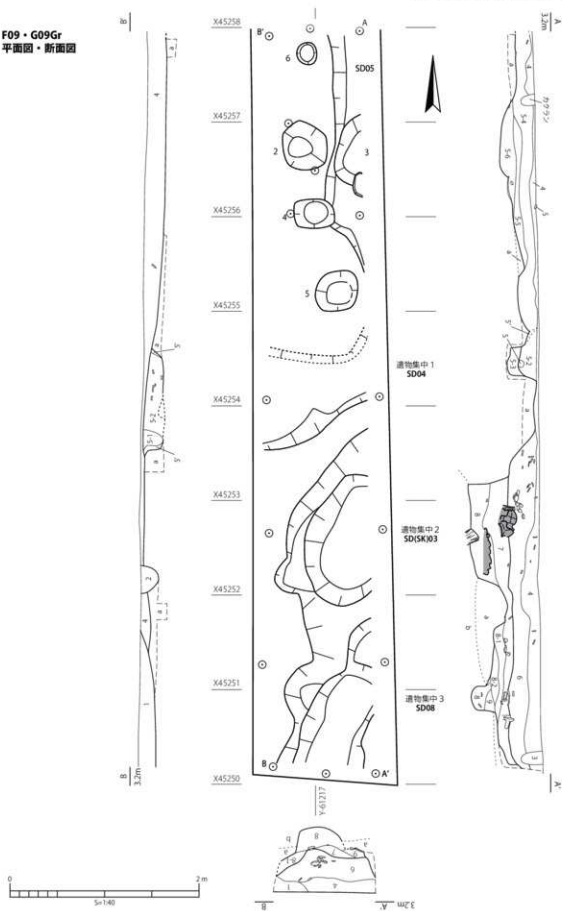
北側の SD(SK)03 は、南西～北東方向へ延びる溝状遺構の底面に、さらに土坑状の掘り込みを有する。土坑は推定長軸 1.4m × 推定短軸 0.9m の平面楕円形で、検出面から底面までの深さは約 40cm となる。遺物出土は上位の遺物集中に比べて残存率の高い個体が多い傾向にある。覆土はよくしまり、炭化物を多く含み、下層にいくにつれて粘性が高い土質であった。

出土遺物は古墳時代の土器が主体である。上面からは布留系甕（56）、直口壺（57）、畿内系の有稜口縁高杯（59）、小型壺（58）が出土している。上層から横倒しの状態で出土した山陰系壺（60）は全形が分かる良好な資料で、胴部外面にタタキ→ハケ調整、内面に当て具（指か）→ケズリの痕跡が残り、焼成後に頸部を打ち欠いて穿孔する。外面にはスス痕がある。土器内部に溜まった堆積土にはガラス質物質が含まれていた（付章参照）。底部付近からは 61 のくの字口縁甕の破片が密着した状態で出土しており、器台に転用したものと考えられる。鼓形器台を模したものであろうか。さらにこの 61 の転用器台と同一個体である胴部片（62・63）や 64 の小型壺が、60 に接して出土した。これらの土器は出土状況から一括性が高いと考えられる。60 直下の中層からはくの字口縁甕（65）、小型壺（66）が出土している。中層土器を取り上げると、山陰系壺（68）が 60 とやや位置をずらした場所から横倒しの状態で出土した。60 に比べてやや厚ぼったい印象で、歪みも大きく、口縁部



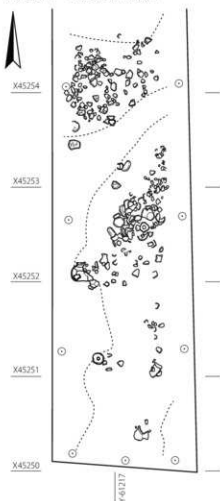
第 19 図 第 24 図 60～63（左）と第 25 図 68（右）の取り上げ状況

F09・G09Gr  
 平面図・断面図

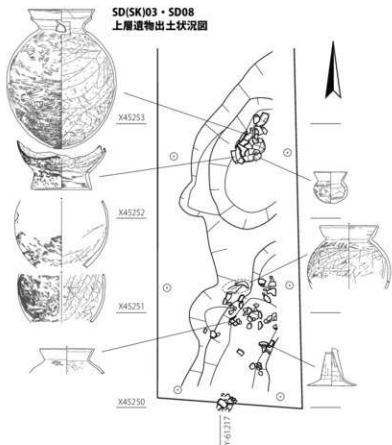


第20図 B区 遺構実測図2

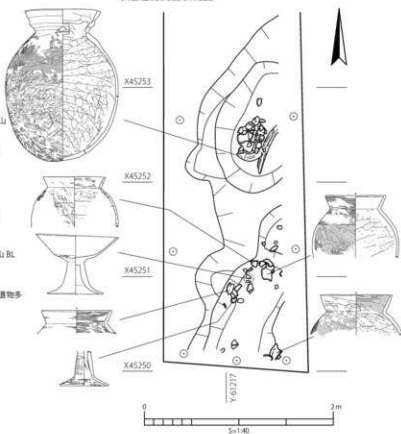
遺物集中 1～3 遺物出土状況図



SD(SK)03・SD08  
上層遺物出土状況図



SD(SK)03・SD08  
下層遺物出土状況図



F09・G09 グリッド土層註

層名: Hue V/C; 土色・土性: 備考

1: 灰褐色細砂; しまり弱, 新しい層り込み

2: 5-2 に類似するが, 地山 Bl 多

3: 10YR3/3; 黄褐色壤土; 4 に類似するが, 炭化物多

4: 10YR4/2; 灰黄褐色砂壤土; しまり強, 酸化鉄多, 砂粒含, 地山 Bl 含, 遺物含

5: 10YR3/3; 黄褐色壤土; しまり弱, 砂粒少, 炭化物少, 遺物多

5': 5-2 と A の混在

5-1: 5-2 より地山 Bl・炭化物少

5-2: 5 に酸化鉄含, 炭化物多, 地山 Bl 含 (径 3cm 以下)

5-3: 5-2 より色調暗め, 地山 Bl やや少

5-4: 5 をベースに 4 と地山 Bl が混在, 小礫・炭化物・遺物含有

5-5: 5-6 より色調明るめ, 5-6 を斑状に含有, 地山 Bl 少

5-6: 5-3 と色調類似, 炭化物多, 地山 Bl 含

6: 10YR4/4-3/4; 褐色 (黄褐色) 壤土; しまり強, 酸化鉄含, 地山 Bl 多 (径 10cm 以下), 炭化物多, 遺物多

7: 10YR2/3; 黄褐色粘壤土; 6 よりしまり強, 遺物多

8: 2.5Y/1; 黒色粘土; 7 よりしまり弱, 地山 Bl 多, 炭化物含, 遺物多

8-1: 8 より色調明るめ, 7 が混在, 遺物含有

8-2: 8 より炭化物多, 遺物含有

9: 8 に類似し, 地山 Bl を斑状に含有

(以下, 地山)

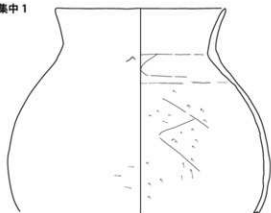
A: 10YR5/3; 黄褐色粘壤土; しまり強, 酸化鉄多

B: 7.5GY5/1-6/1; 緑灰色粘土; しまり強

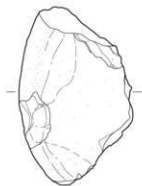
C: 10YR4/4; 褐色砂土; 細砂～粗砂

第 21 図 B 区 遺構実測図 3

遺物集中 1

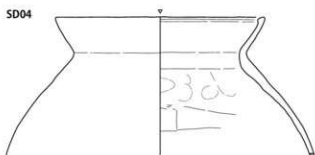


43  
[ 珧 124 ]



44  
[ < 76 ]

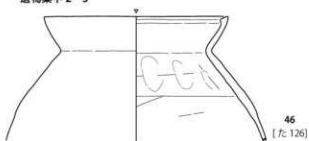
SD04



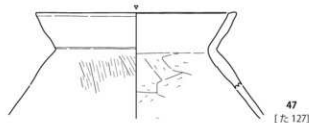
45  
[ 珧 125 ]



遺物集中 2・3



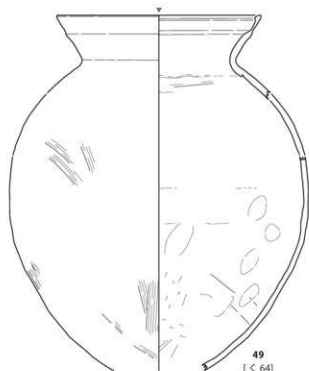
46  
[ 珧 126 ]



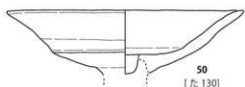
47  
[ 珧 127 ]



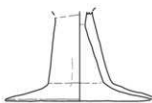
48  
[ < 57 ]



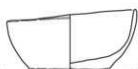
49  
[ < 64 ]



50  
[ 珧 130 ]



51  
[ 珧 131 ]

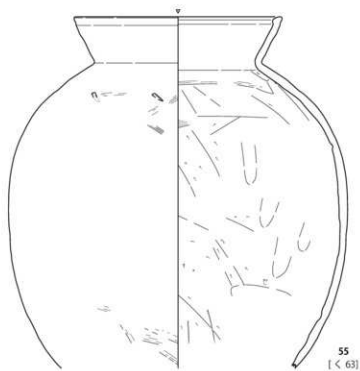
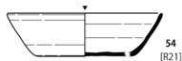


52  
[ 珧 132 ]



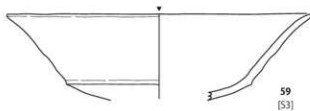
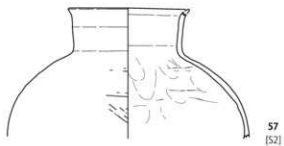
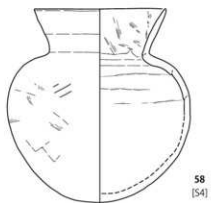
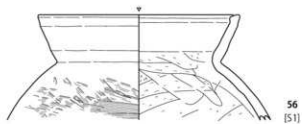
第 22 図 B 区 遺物実測図 8

遺物集中1+遺物集中2・3



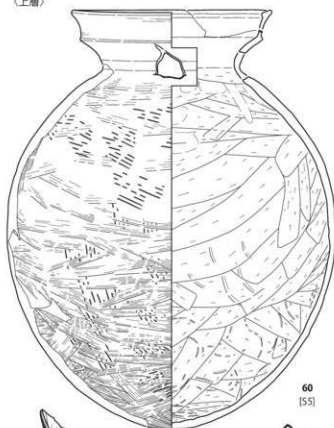
SD(SK)03

〈上面〉

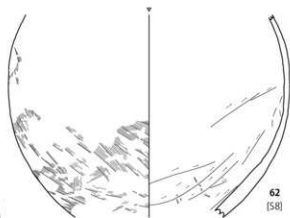


第23図 B区 遺物実測図9

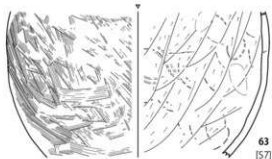
〈上層〉



60  
[55]



62  
[58]



63  
[57]

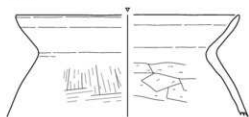


61  
[56]



64  
[59]

〈中層〉



65  
[510]



66  
[511]

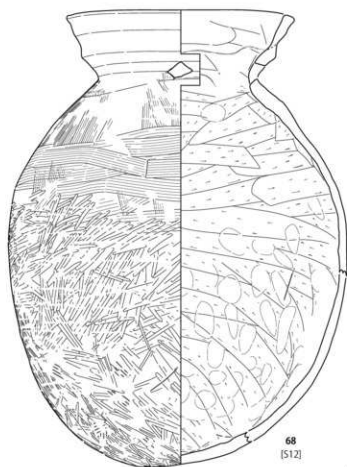
〈下層〉



67  
[ < 62 ]



第24図 B区 遺物実測図10



68  
[S12]

〈最下層〉



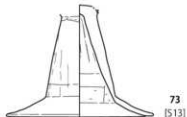
69  
[ < 58 ]



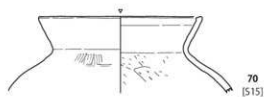
SD08  
〈上層〉



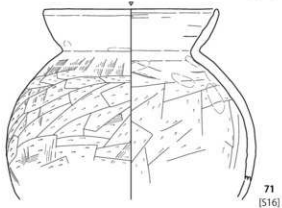
72  
[S14]



73  
[S13]

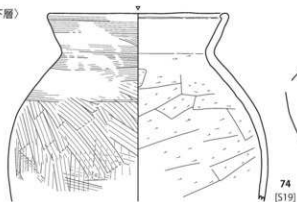


70  
[S15]

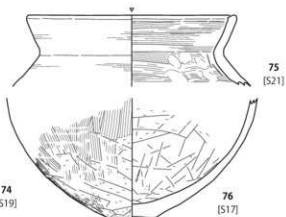


71  
[S16]

〈下層〉



74  
[S19]

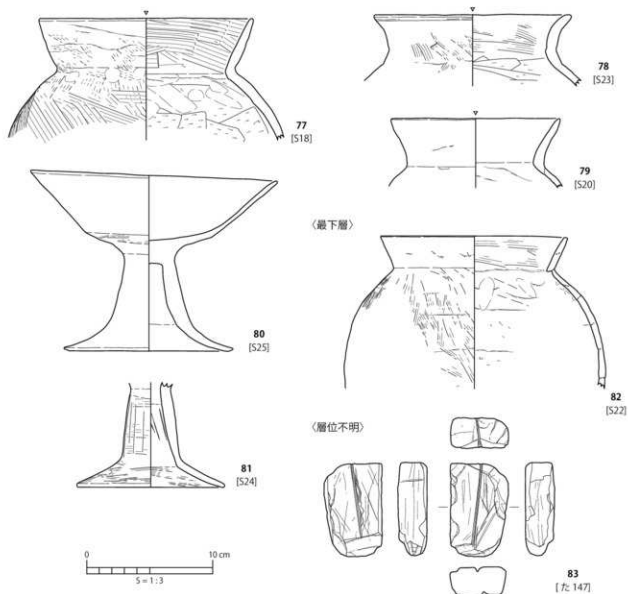


75  
[S21]

76  
[S17]

第 25 図 B 区 遺物実測図 11





第 26 図 B 区 遺物実測図 12

稜線等のシャープさに欠ける。頸部には 60 同様に焼成後穿孔が認められる。胴部外面の最終調整は上半がヨコハケ、下半がヘラミガキであるが、表面観察からタタキやケズリを経ていることがうかがえる。胴部内面には外面のタタキに対応するような当て具痕跡をケズリ調整している。外面にはスス痕がある。この 68 のさらに下層からは月影系の有段口縁甕片 (69) と自然木が出土している。これらの出土土器から、本遺構の所属時期は田嶋編年の古墳 3 様式 I 期 (漆町 12 群期) を主体とする時期と考えられる。

南側の SD08 は北側の SD(SK)03 同様の軸方向で、南西—北東方向に延びる溝状遺構と考えられる。検出長 1.4m、幅 0.6～0.7m で、深さは検出面から約 40cm を測る。覆土も SD(SK)03 によく似た土質であった。

出土遺物は古墳時代の土器が主体である。布留系甕 (70・74・75)、くの字口縁甕 (71・77・78・82)、畿内系の高杯 (72・73・80・81)、直口壺 (79)、風化流紋岩製の砥石 (83) が出土している。布留系甕は口唇肥厚がわずかで、粗いハケ原体や口縁内面ヨコハケ調整等、斉一性に欠ける。くの字口縁甕は内外に粘土接合痕が明瞭で、粗いハケ原体や口縁内面ヨコハケ調整等、布留系甕と一

部調整方法が共通する。71は胴部外面のハケ調整後にケズリを施す。高杯には、72の内面ハケ調整や、80のように畿内系の特徴である杯部の稜や脚部の屈折が著しく弱い個体が含まれる。これらの出土土器から、本遺構の所属時期は田嶋編年の古墳3様式1期（漆町12群期）を主体とする時期と考えられる。

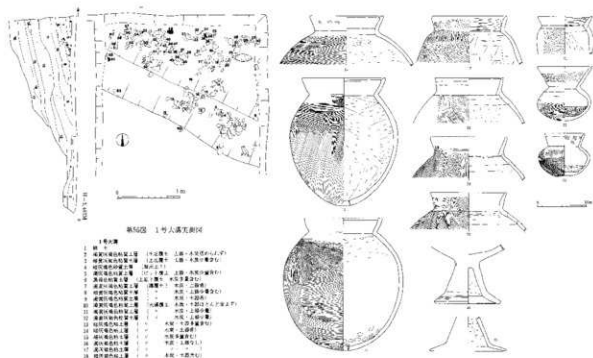
### 3 旧河川（SX01）（第28～37図）

旧河川（SX01）は、昭和56年度調査時に一部が調査されており、「1号大溝」の名称で報告されている。当時は調査区北側を流れる梯川に沿って掘削された人工の溝として捉えられているが、今調査区あるいは平成26・27年度県調査区での成果から、大きく蛇行して流れる梯川旧流路そのものであると考えられる。

出土土器は、弥生時代から古代にかけての資料が出土し、特に田嶋編年の古墳2様式I2期～3様式1期（漆町10～12群期）の資料が主体で、古墳3様式1期（漆町12群期）の標式資料の1つとして扱われている（第27図）。

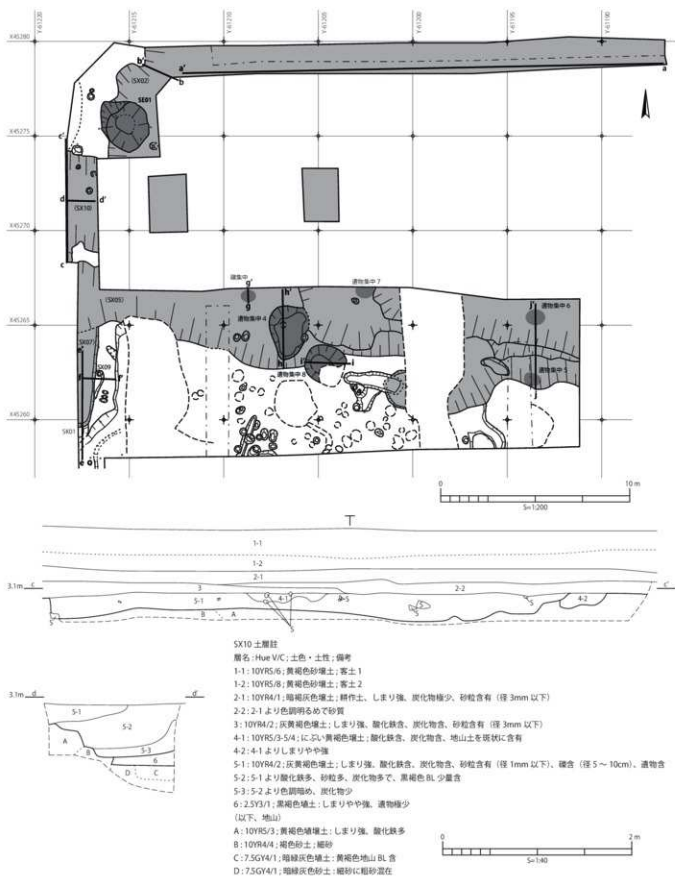
今調査区B区においては、東から西への流路が調査区西側で流れを北方へ変えて蛇行する様子が確認できた。B区北側の擁壁工事区域におけるa-a'断面では、河川肩部付近に遺物出土が顕著で、古墳時代の土器が多数出土した。旧河川の一部であるSX05・SX07・SX10は比較的浅く、層位の乱れがほとんどなく、人為的な掘削の痕跡は認められないため、氾濫原の一部と推測され、西側の調査区A区にかけて広がる。B区中央付近では遺物集中域が確認され、遺物集中4及び8のように土坑状となるものもある。遺物集中8は昭和56年度に151号土坑として掘削されているが、今調査で過去に把握された規模よりも大きいことが分かった。

覆土は総じて灰黄褐色～褐灰色のしまりのある粘質土を主体とし、所々に砂や炭化物が混じる。昭和56年度調査で深さは3m以上と想定されており、今調査では掘削を断念した箇所も多い。

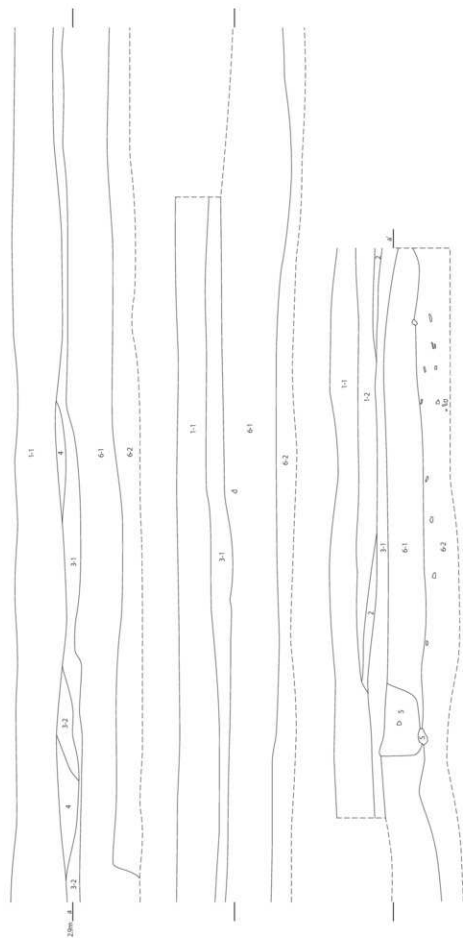


第27図 昭和56年度調査1号大溝平面図と出土した漆町12群標式土器（石川県埋文1988より）

旧河川 (SX01) 平面図・断面図



第 28 図 B 区 遺構実測図 4



5001 比呂根遺跡部分 土層柱

層名: Huc VC; 土色、土質、備考

1-1: 10YR5/6; 黄褐色砂壤土; 密土 1

1-2: 10YR5/8; 黄褐色砂壤土; 密土 2

2: 10YR4/7; 暗褐色壤土; 耕作土

3-1: 10YR6/2-5/2; 灰黄褐色壤土; しまり肌、酸化鉄質、酸化鋁質、砂粒含有 (径 5mm 以下)

3-2: 3-1 より色調暗く、遺物少量含有

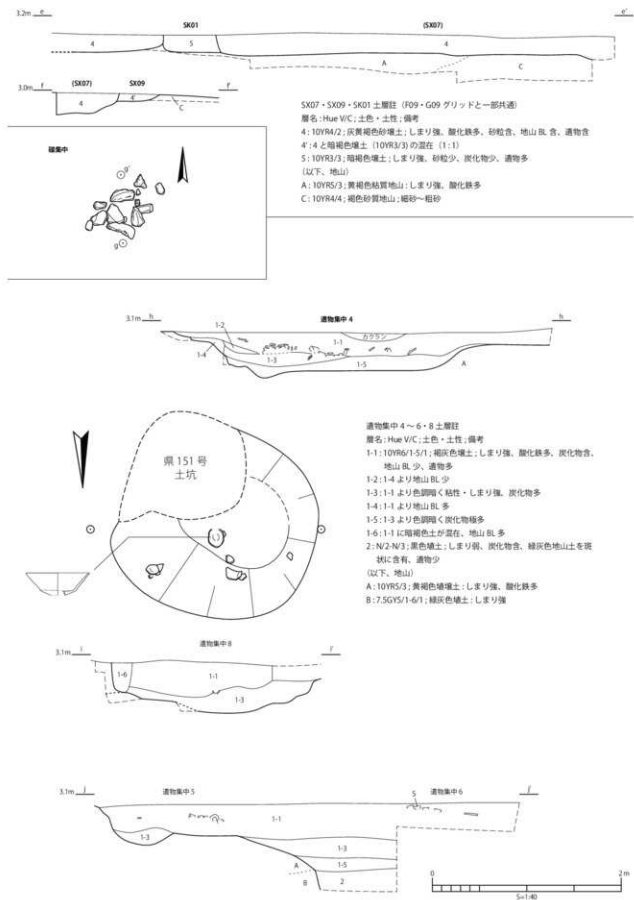
4: M3; 褐色砂壤土; 3-1 よりしまり肌、緑灰色灰膏

5: 10YR3/3; 暗褐色壤土; しまり肌、酸化鋁質、砂粒含有 (径 2mm 以下)、遺物含有

6-1: 10YR6/1; 暗褐色壤土; しまりやや弱、酸化鉄質、遺物少

6-2: 6-1 より色調暗く粘性、しまり強、遺物多 (西部の河川河床面に近い層所に多い)

第 29 図 B 区 遺構実測図 5



第 30 図 B 区 遺構実測図 6

出土遺物は、古墳時代前期～中期と古代の資料が主体で、わずかに弥生土器や中世の資料を含む。

記濫原としたSX10からは、概ね2時期の古墳時代の土器が出土した。月影系の有段口縁甕(84)、能登形甕?(85)、口縁が内湾気味に立ち上がるいわゆる東海地方の「瓢壺」に類似する壺(86)は田嶋編年の古墳1様式I期(漆町5・6群期)に比定される。一方、くの字口縁甕(87・88・89)、直口壺(90)、杯部の稜が弱まり碗形となった高杯(91)は、古墳3様式I～II期(漆町12・13群期)に位置づけられる。

北側擁壁工事区域では、布留系甕(92・93)、山陰系甕(94)、山陰系壺(95)、小型壺(96・97)、屈折脚をもつ高杯(98・99)、粘土接合痕を残す粗製の鉢(100)が出土した。概ね古墳2様式II期～3様式I期(漆町11・12群期)の様相を呈する。これらの土器群に、土鍾(101)、穿孔された断面半円形の棒状石製品(鍾か?)(102)、滑石製の有孔円板(103)が伴うものと考えられる。ほかわずかに平安時代後期の須恵器・土師器が出土する(104・105)。

遺物集中4からは、くの字口縁甕(106～108)、稜や凸帯を有する杯部や屈折脚をもつ高杯(109～112)、小型壺(113)が出土した。くの字口縁甕主体で、杯部に明瞭な凸帯を有する高杯(112)等より、古墳3様式I～II期(漆町12・13群期)に比定される。

遺物集中5からは古墳2様式II期～3様式I期(漆町11・12群期)頃と思われる高杯(123・124)が出土している。

遺物集中6は古代の須恵器が主体で、坏B蓋身(115・116)、坏A(117～119)、盤A(120～121)を図化した。117の焼き歪みが著しい坏A底部外面や121の盤A底部内面に、墨痕と思われる痕跡があり、転用碗として使用されたものと推測される。概ね古代Ⅲ～Ⅳ期(8世紀前半～末)頃の所産と考えられる。

遺物集中8では、布留系甕(126・127)、畿内系の高杯(128)、小型器台(129)が出土している。128の高杯の深身杯部や、小型器台の残存等、古墳2様式I2期(漆町10群期)の様相を示すと考えられる。130は内面黒色で、古墳時代後期にかけて発達する有脚碗の脚部であろうか。

131～200はその他グリッドごとにとり上げた遺物である。

131～134はD10・E10グリッド出土で、月影系の有段口縁甕(131)、山陰系甕(132)、畿内系の高杯(133)、中実の高杯脚部(134)。

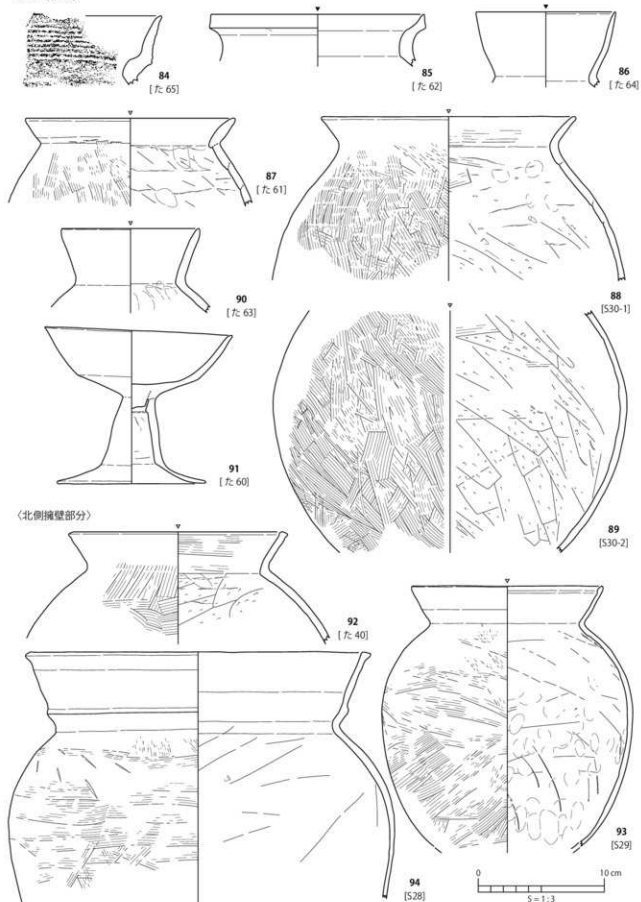
135・136はD11・E11グリッド出土で、ミニチュア土器(135)と手づくね土器(136)。手づくね土器は古墳3様式II期(漆町13群期)に急増するものである。

137～156はD13・D14・E13・E14グリッド出土である。くの字口縁甕(137～139)、口縁部の稜が退化して直線的となる山陰系甕(140)および山陰系壺(141・142)、脚部の開きが大きく内面に粘土接合痕が明瞭な高杯(143・144)や器壁が厚く中実気味となる高杯(145)、小型壺(146・147)、有脚で内黒の碗(148)、内黒とならず口縁が短く外反する碗(149)、手づくね土器(150～154)、甕(156)が出土している。概ね古墳3様式I期～4様式II期頃(漆町12～15群期)までの時期幅を有する可能性があるが、その中でも主体は古手にあると推測される。155は古墳時代後期に出土が多い滑石製の紡錘車形製品である。

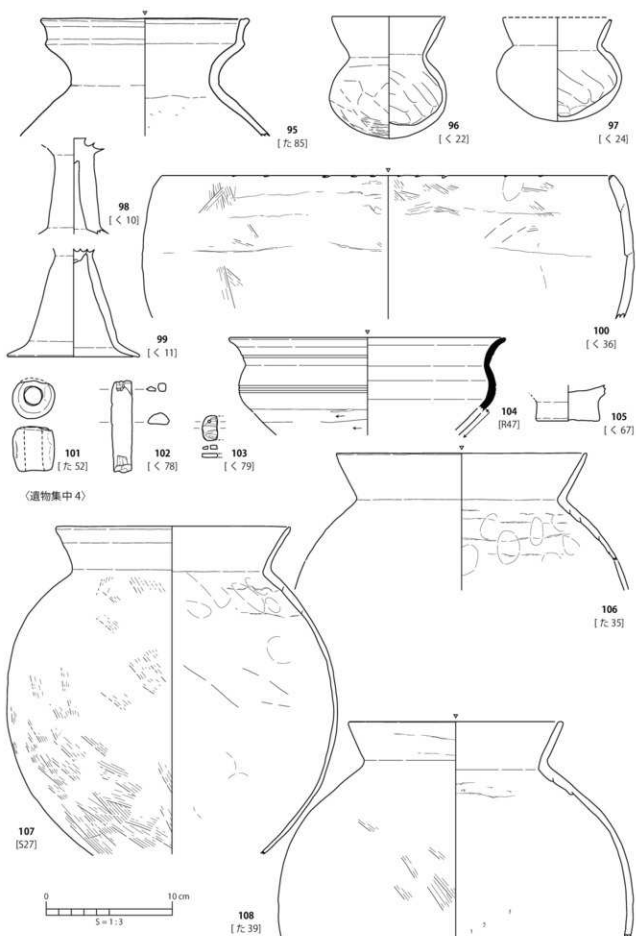
157～193はグリッド出土の古代の須恵器で、大きく古代I・II期(157～173)と古代Ⅲ～Ⅵ期(174～193)に区分される食器・貯蔵具類である。

194～196は古代の土師器及び土師質製品である。194・195は長銅釜で、194は在来の煮炊具器形を有しつつ胴部外面をタタキ調整しており、北陸型煮炊具確立前のもものと推測される。196は甕形土製品の付け底部分であろうか。

SX01 < SX10 >

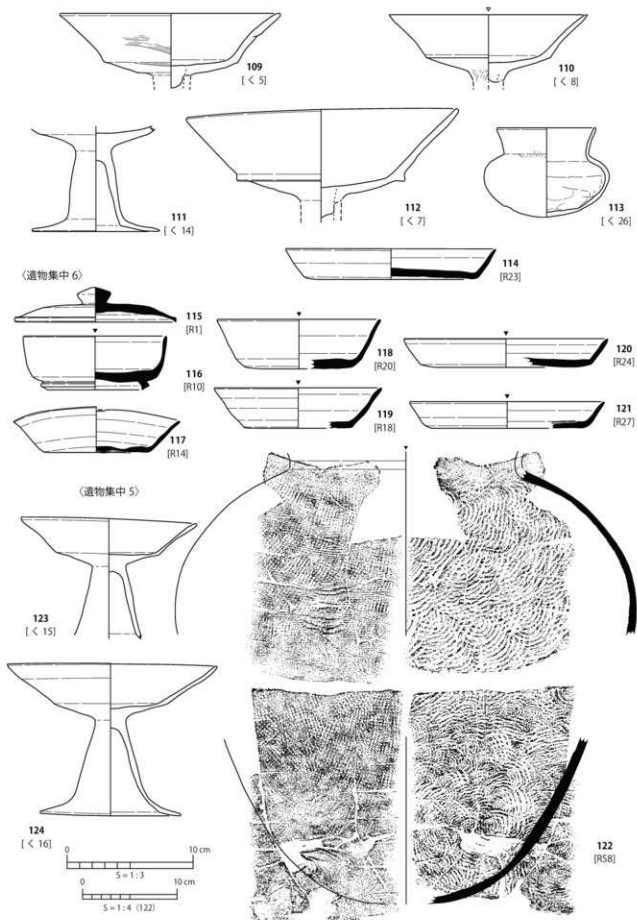


第31図 B区 遺物実測図13



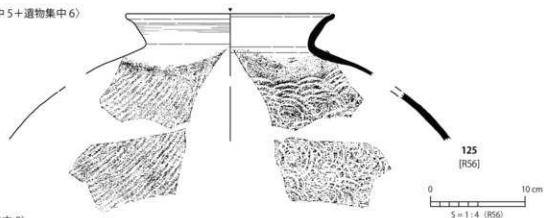
第32図 B区 遺物実測図14



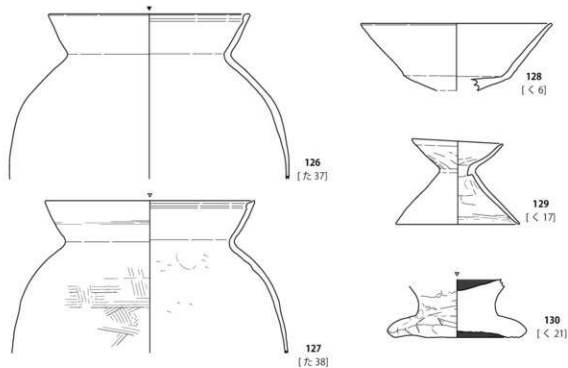


第33図 B区 遺物実測図15

〈遺物集中5+遺物集中6〉

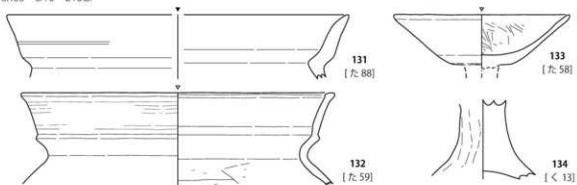


〈遺物集中8〉

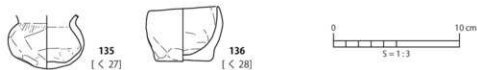


〈その他グリッド等/古墳時代の遺物〉

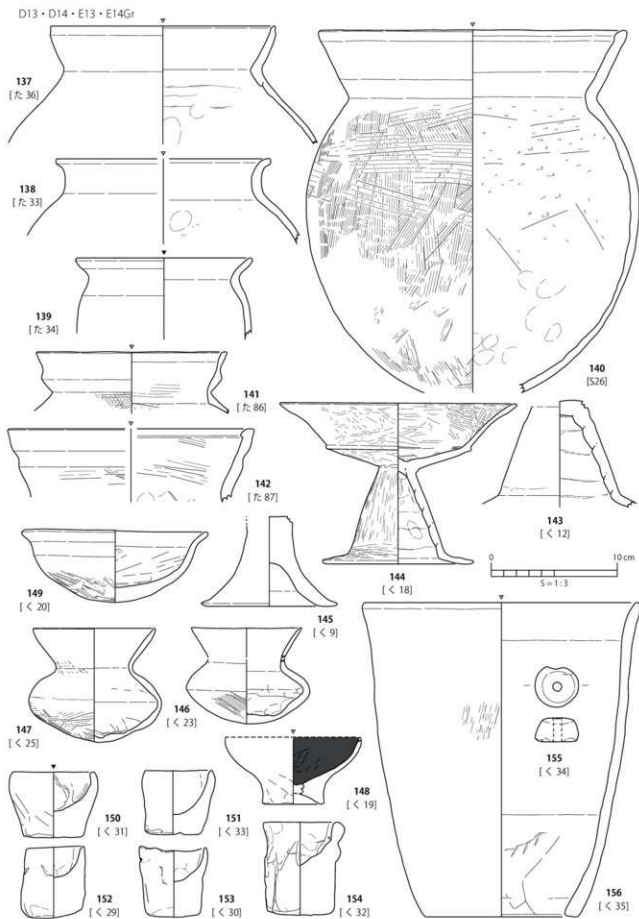
SX05・D10・E10Gr



D11・E11Gr

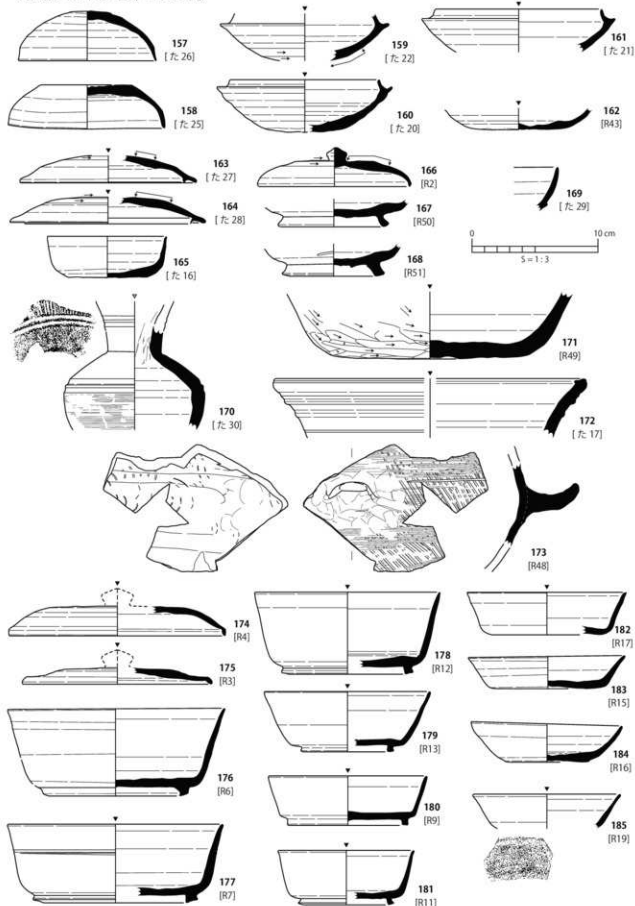


第34図 B区 遺物実測図16

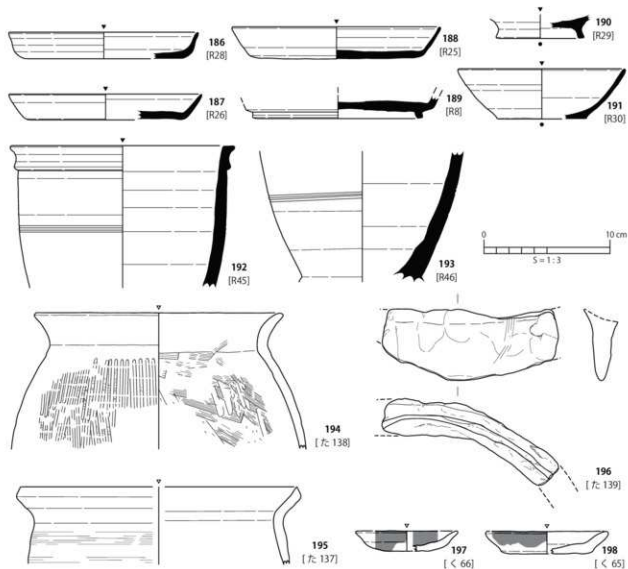


第35図 B区 遺物実測図17

〈その他グリッド等／古代・中世の遺物〉

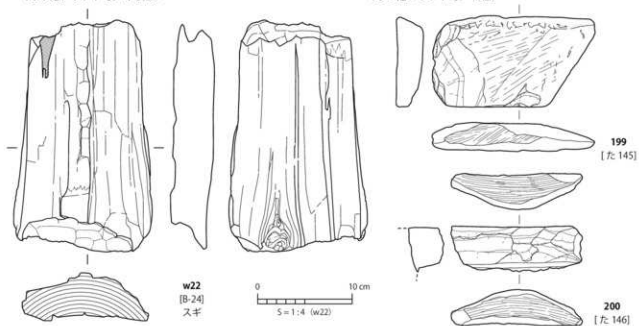


第 36 図 B 区 遺物実測図 18



〈その他グリッド等/木製品〉

〈その他グリッド等/石器〉



第37図 B区 遺物実測図19

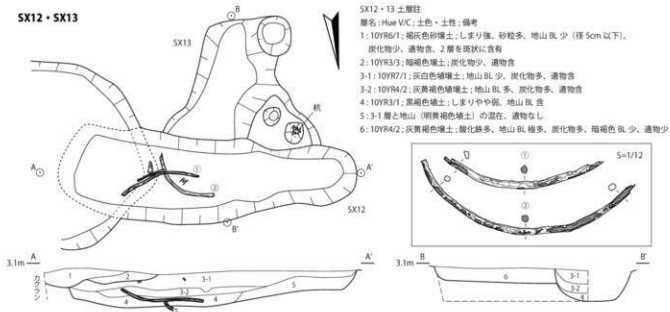
197・198 は非ロクロ系の土師器皿で、15 世紀後半～16 世紀前半頃の所産と思われる。  
w22 は E14 グリッド下層から出土したスギの残材。  
199・200 は砥石としたが、200 は何らかの製品の一部分である可能性もある。

## 5 その他の遺構・遺物 (第 38～40 図)

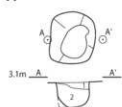
### SX12

SX12 は E12 グリッドで検出した不明遺構である。推定長軸 (東西) 3.2m × 短軸 (南北) 0.6～1m の平面長楕円形を呈し、深さは 20～40cm となる。南側は SX13 を切り、東側は旧河川に切られている。底面は西から東へ長軸方向にわずかに傾斜するもののほぼフラット状態で、底面直上からはタモ網枠と考えられるイヌガヤ芯持ち材 (w23・w24) が 2 点交差するように重なって出土した。このイヌガヤ材は樹皮付きであるため、未成品の可能性もある。覆土は灰色系の 3 層と黒褐色系の 4

### SX12・SX13



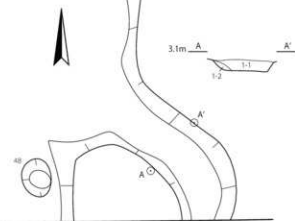
### P7



### P07 土層註

層名: Hue V/C; 土色・土性: 備考  
 1: 10YR3/4; 暗褐色壤土; しまり強、炭化物・地山 Bl 少、遺物否  
 2: 10YR3/2; 黒褐色壤土; しまり強、地山 Bl 多、炭化物否、遺物多

### SD09

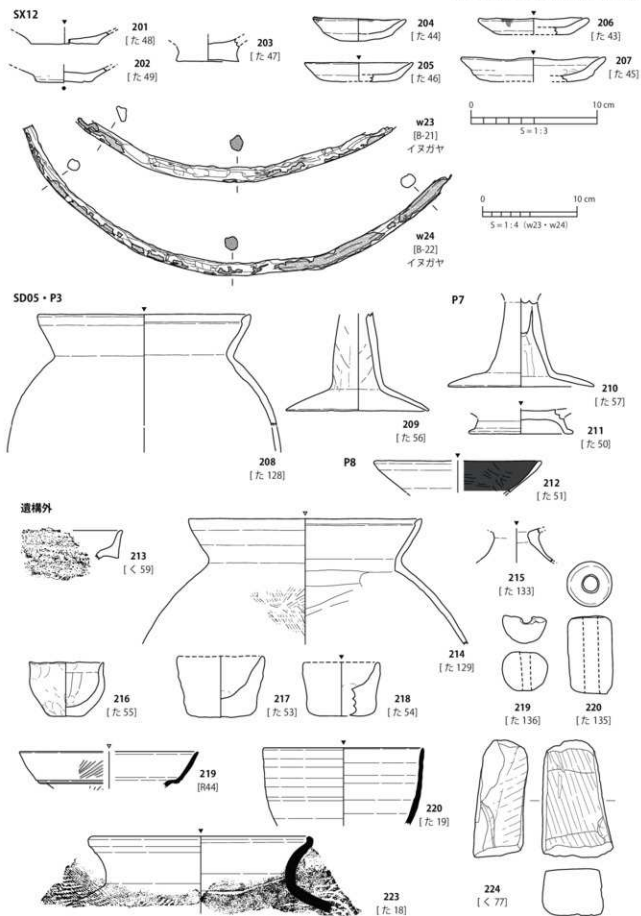


### SD09 土層註

層名: Hue V/C; 土色・土性: 備考  
 1-1: 10YR6/1-5/1; 細灰色壤土; しまり強、酸化鉄多、炭化物否、地山 Bl 少、遺物多  
 1-2: 1-1 より地山 Bl 多

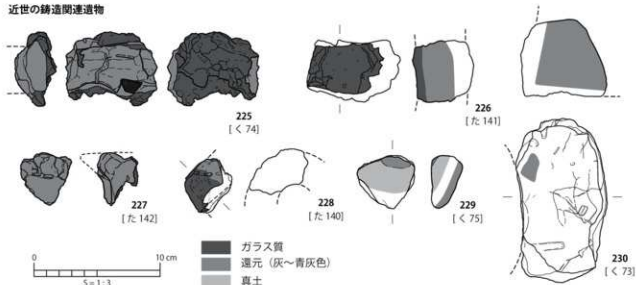


第 38 図 B 区 遺構実測図 7



第39図 B区 遺物実測図20

#### 近世の鑄造関連遺物



第40図 8区 遺物実測図21

層に分けられ、出土土器にもロクロ系 (201～203) と非ロクロ系 (204～207) の2時期があるが、出土位置はやや混在する。前者は柱状高台が含まれるため11・12世紀代、後者は15世紀後半～16世紀前半頃に位置づけ可能である。

#### その他ビット・溝出土の遺物

208～210は古墳時代の土器で、布留系甕 (208)、畿内系の高杯脚部 (209・210) がある。211・212は平安時代後期の土器で、土師器碗皿類の高台 (211)、内黒碗 (212) がある。

#### 遺構外の遺物

213は弥生時代後期の有段口縁甕。214～220は古墳時代の所産と考えられ、214は布留系甕、215は小型器台、216はミニチュア土器、217・218は手づくね土器、219・220は土玉・土錘類。

221～223は古代の所産で、221はハソウ、222は脚付釜、223は甕で、古代Ⅰ・Ⅱ期に比定される。

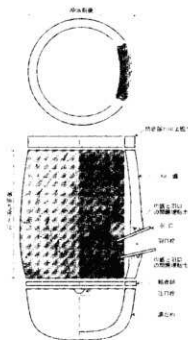
224は砂岩製の砥石である。

#### 近世の鑄造関連遺物

今調査区では、北側の県調査区で検出された近世の鋳物生産工房跡から混入したと考えられる遺物が散見された。

225～228は鉄素材を高温で溶解する炉に関連した遺物である (構造は第41図を参照)。225は中甕と湯だめの間にかませる粘土 (結合部)、226は湯だめ、227は結合部と出湯口を塞いだ注口栓、228は中甕に付属する羽口である。

229・230は溶解した鉄を流し込む鋳型に関連した遺物である。229は鋳型の一部で、230は鋳型台座 (ジョウ) の可能性がある。



第41図 溶解炉 (西田2020より)



## 第4節 小 結

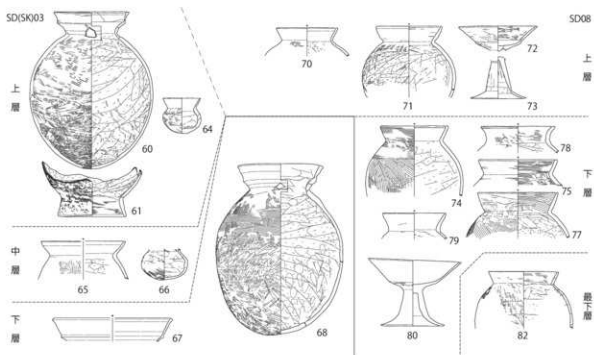
## (1) 古墳時代中期の土器について

今報告の調査区B区では、主にSE01下層、SD(SK)03・SD08、旧河川(SX01)肩部において、まとまった古墳時代の資料が得られた。特にSD(SK)03・SD08における田嶋編年の古墳3様式1期(漆町12群期)の一括性の高い資料が着目される(第42図)。梯川流域ではほかに荒木田遺跡1号住居ないしは5号住居出土資料が当該期に属する資料で、対比可能と判断される。詳細な検討はできていないが、新たな資料の追加に寄与できたといえよう。

## (2) SE01出土家形木製品について

SE01から出土した家形木製品は、管見に触れる限り全国的に類例のないものである。唯一、鳥根県松江市タテチョウ遺跡において15～16世紀の旧河道から出土した資料(第43図右・屋根部分のみの家形)が該当するといえようか。廃棄・解体された状態での出土であるため、具体的な機能や用途の推定は困難であるが、部材には組接着して製作した痕跡とは別の痕跡をわずかに見出すことができる。報文中では触れることができなかったが、第43図左下に示したとおり、平側材背面(w2)には床板を固定した木釘列の下に、もう1つの木釘列があることがうかがえる。これは別の部材(例えばw7やw8)を組み合わせて何かに据え付けた痕跡であると捉えることもできる。また平側材正面は大きく開口し、何かを安置して常に外から見える状態を演出していたとも捉えられる。これらのわずかな手がかりから類推すると、社祠の一種であった可能性が考えられる。

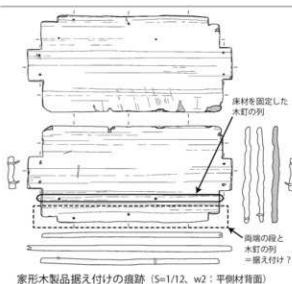
では何を安置したのであろうか。市内では浄水寺跡や古府シマ遺跡で「僧形神像」(第43図左上)が出土しており(石川県教委・石川県埋文2008、山内2021)、そうした尊像が家形に安置された信仰の対象物であったといえようか(垣内光次郎氏御教示)。今後、復元製作等を通じてさらに検討を深めていきたい。



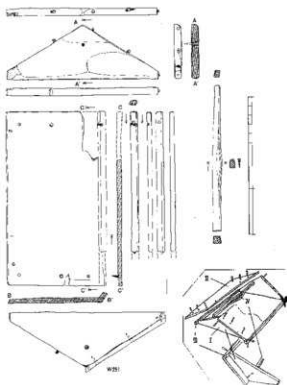
第42図 古墳3様式1期(5世紀前半)の土器



小松市浄水寺跡出土僧形神像  
(S=1/3、平安時代後期～末頃の埴地土層出土)



家形木製品挿え付けの痕跡 (S=1/12, w2: 平側材背面)



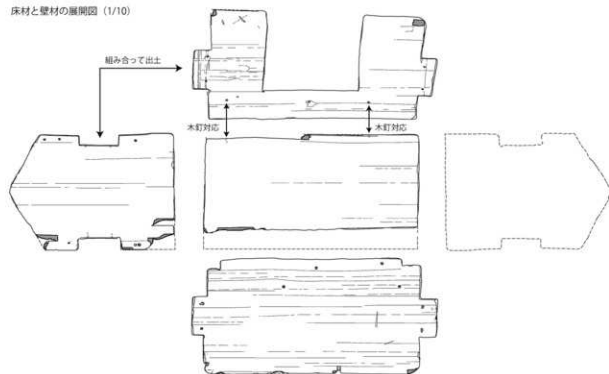
島根県松江市タテチョウ遺跡出土家形木製品  
(S=1/4, 15～16世紀の旧河道出土)

第43図 家形木製品関連図1

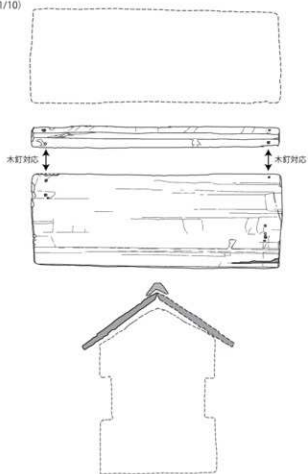
#### 参考文献

- 石川県立埋蔵文化財センター 1986 『漆町遺跡Ⅰ』  
 田嶋明人 1986 『漆町遺跡出土土器の編年的考察』 『漆町遺跡Ⅰ』 石川県立埋蔵文化財センター  
 石川県立埋蔵文化財センター 1988 『漆町遺跡Ⅱ』  
 小松市教育委員会 1987 『第一小学校々地内 漆町遺跡発掘調査報告』  
 田嶋明人 1988 『古代土器編年軸の設定』 『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題』 北陸古代土器研究会  
 島根県教育委員会ほか 1990 『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』  
 藤田邦雄 1992 『加賀地域の様相—土師器—』 『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』 北陸中世土器研究会  
 小松市教育委員会 1996 『荒木田遺跡』  
 田嶋明人 1996 『北陸地方の古墳時代の土器』 『日本土器事典』 雄山閣出版  
 辻美紀 1999 『古墳時代中・後期の土師器に関する一考察』 『国家形成期の考古学』 大阪大学考古学研究室  
 望月精司 2003 『北陸・信越地域の土器』 『考古資料大観 3 弥生・古墳時代の土器Ⅲ』 小学館  
 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2008 『小松市浄水寺跡』  
 小松市教育委員会 2010 『漆町遺跡』  
 (公財) 石川県埋蔵文化財センター 2015 『石川県埋蔵文化財情報』 第34号  
 (公財) 石川県埋蔵文化財センター 2016 『石川県埋蔵文化財情報』 第35号  
 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2018 『小松市漆町遺跡—金屋地区1—』  
 (公財) 石川県埋蔵文化財センター 2019 『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相—城下町とその周辺遺跡の土師器Ⅲ (かわらけ) を中心に—』 平成30年度 環日本海文化交流史調査研究集会  
 西田弘弘 2020 『漆町遺跡 (金屋地区) における溶解が構造の復元』 『漆町遺跡研究会 30周年記念論集』 漆町遺跡研究会  
 望月精司 2020 『第六章 第二節 生産遺跡』 『新修小松市史』 資料編 17 考古 新修小松市史編集委員会  
 山内花緒 2021 『古府シマ遺跡』 『令和2年度いしかわを撮る (発掘報告会) 当日資料』

床材と壁材の展開図 (1/10)



屋根材と棟材の展開図・断面図 (1/10)



第44図 家形木製品関連図2

第2表 B区 土器・土製品・石器・石製品観察表

掲載No.	実測No.	出土位置	分類	器形	寸法(長さcm・重さg)	規/36	表面色調	断面色調	備考
1	た41	SE01 3~5層	土師器	甕	口15.9	9	10YR8/2	N/4	赤色粒含、口内外行、胴外ウ、胴内ウリ、布留系
2	た66	SE01 3~5層、7・8層	土師器	甕	口16.1	7	2.5Y8/1	2.5Y7/1	赤色粒含、接合痕、くの字、漆12群
3	た71	SE01 7・8層	土師器	甕	口16.1	8	10YR8/2	2.5Y8/2	赤色粒含、口内外行、胴外ウ、胴内ウリ・指押、外黒斑・黒斑有、布留系、漆12群
4	た69	SE01 7・8層	土師器	高杯	脚10.4	脚6	2.5Y7/2	2.5Y7/1	赤色粒含、内ウリ、畿内系
5	た70	SE01 下キ9(上層)	土師器	高杯		脚6	5YR7/6	2.5Y7/1	赤色粒含、畿内系
6	た42	SE01 7層	土師器	壺	口16.1	18	2.5Y5/2	2.5Y6/1	口外行、口内ウ粗→行、頸外ウ粗、胴内ウリ・指押、外黒斑・内黒化、外布目庄痕有、山陰系、漆11-12群
7	た67	SE01 7・8層	土師器	壺	口18	10	7.5Y8/3	2.5Y7/1	赤色粒含、内外行、山陰系、漆12群
8	た68	SE01 7・8層	土師器	壺	口11.8	14	2.5Y7/2	N/3	内外行、内黒化、山陰系、漆12群
9	R42	SE01 下キ7(上層)	須恵器	坏H蓋			5YR5/2	7.5Y7/1	天外回転ウリR、古代1期
10	R41	SE01 1~3層	須恵器	坏G蓋	寸径1.5、寸高0.9		N/6	5P7/1	天外回転ウリL、古代1Ⅱ-Ⅲ1期
11	R37	SE01 3層上	須恵器	坏B蓋	寸径2.8、寸高1.2		N/6	N/6	
12	R39	SE01 検出面	須恵器	坏B身	口10.6、台8.4、高4.1、台高0.6	1	N/5	N/7	古代Ⅳ期
13	R38	SE01 3層	須恵器	坏A	口12.5、底8.4、高3.3	2	N/5	N/7	
14	R32	SE01 1~3層	須恵器	坏B	口16.9	6	N/6	N/7	古代Ⅵ期
15	R34	SE01 1~3層	須恵器	碗Bor皿B	台6、台高0.6	台8	5YR4/2	N/5	体外回転ウリR、古代Ⅲ3期
16	R36	SE01 検出面	須恵器	小煎瓶	台5.4、台高0.5	台2	N/7	N/8	体外回転ウリL、古代Ⅴ2期
17	R53	SE01 1~3層	須恵器	瓶D			N/5	N/8	外2条沈線、古代Ⅵ期
18	R54	SE01 2層	須恵器	甕			N/6	N/7	古代Ⅵ期
19	R40	SE01 2・3層	須恵器	甕	口19.6	4	N/6	N/7	
20	R59	SE01 2層	土師器	甕(把手)			2.5Y8/3	2.5Y8/2	赤色粒含
21	よ14	SE01 1~3層	土師器	坏B	台7	台18	5YR7/6	5YR7/6	赤色粒含
22	よ13	SE01 2・3層	土師器	坏B	台6.8	台15	2.5Y8/1	2.5Y7/1	
23	よ12	SE01 2層	土師器	坏B	台5.7	台26	2.5Y8/2	2.5Y8/2	内黒、内窪キ?
24	よ2	SE01 1~3層	土師器	坏A	口13.9、底7、高3.9	22	5YR8/4	5YR8/4	糸切痕、赤色粒含、中世1期
25	よ9	SE01 1・2層	土師器	柱状碗	台5.5	台36	7.5YR8/6	7.5YR8/6	赤色粒含
26	よ8	SE01 2・3層	土師器	柱状碗	台5.5	台27	10YR8/3	10YR8/2	赤色粒含
27	よ3	SE01 2層	土師器	小皿A	口9、底5.4、高2	28	7.5YR8/6	7.5YR8/6	糸切痕、赤色粒含、中世1期
28	よ4	SE01 2層	土師器	小皿A	口9.7、底5.2、高2.2	36	10YR8/2	10YR8/2	中世1期
29	よ5	SE01 1~3層	土師器	小皿A	口8.5、底4.9、高2.3	14	10YR8/3	10YR8/2	糸切痕、赤色粒含、よ5之胎土・焼成類似、中世1期
30	よ6	SE01 2層	土師器	小皿A	口8.3、底4.4、高2.2	25	10YR8/3	10YR8/2	糸切痕、赤色粒含、よ5之胎土・焼成類似、中世1期
31	よ10	SE01 1・2層	土師器	柱状小皿	台4.3	台20	7.5YR8/6	7.5YR8/6	赤色粒含
32	よ7	SE01 2層	土師器	柱状皿	台9.8	台21	2.5Y8/3	2.5Y8/3	輪積みタイプ、中世1期
33	よ15	SE01 下キ7+1~3層	土師器	別脚小釜?	底6.8	底36	10YR7/2	10YR8/2	糸切痕、外黒斑
34	よ1	SE01 下キ5(層)	土師器	柱状碗	口13.8、台6.2、高4.1	24	7.5YR8/2	7.5YR8/2	糸切痕、赤色粒含、中世1期
35	R35	SE01 7・8層	須恵器	皿B	口14.1、台6.7、高3.5、台高0.7	7	7.5YR6/4	N/7	体外回転ウリR、古代Ⅲ3期
36	R33	SE01 7・8層	須恵器	坏A	底6.1	底12	N/7	N/7	糸切痕、古代Ⅲ3期
37	よ11	SE01 8層	土師器	柱状小皿	台4.8	台14	10YR4/1	10YR8/2	糸切痕、内黒
38	よ16	SE01 検出面+7・8層	陶磁器	碗	台7	台14	輪7.5Y8/1	N/8	白磁、削り出し高台、台部剥胎、内外細かき貫入、山本分類Ⅱ類
39	R31	SE01 下キ7(上層)	須恵器	坏B	口15.6	6	N/6	N/6	古代Ⅵ期
40	よ17	SE01	陶磁器	碗	口15	1	輪5Y7/1	2.5Y7/1	灰輪、小破片
41	た144	SE01 1~3層	石器	磨製石斧	長(9.6)、幅(5.6)、厚さ2.5、重(239.9)				蛇紋岩類
42	た143	SE01 中層11	石器	砥石	長25.3、幅11.2、厚4.5、重2325.5				玻璃質岩
43	た124	遺物集中1	土師器	壺	口13.5	22	10YR8/2	10YR8/1	赤色粒含、胴外ウリ、胴内ウリ、口外黒斑有、漆11-12群
44	く76	遺物集中149	石器	砥石	長(16)、幅(8.8)、厚(5.1)、重(828.3)				灰斑、安山岩
45	た125	遺物集中1下層(SD04)23	土師器	甕	口16.5	8	7.5YR7/4	10YR8/2	胴内行・指押、布留系
46	た126	遺物集中2・3	土師器	甕	口14.6	11	2.5Y8/3	N/4	口内行、胴内行・指押、布留系

## 第Ⅱ章 漆町遺跡金属地区発掘調査

掲載 No.	実測 No.	出土位置	分類	器形	寸法(長さcm・重さg)	残/36	表面色調	断面色調	備考
47	た 127	遺物集中 2・3 上層	土師器	甕	口 16	15	2.5Y8/2	2.5Y7/2	口内外行、胴外行、胴内行、口外黒斑有、布留系退化
48	く 57	遺物集中 2・3-G09 最上層	土師器	壺	口 15.5	8	7.5YR8/3	2.5Y8/3	赤色粒含、内外行、漆 11 群
49	く 64	遺物集中 2・3 21+26+27+28+32	土師器	壺	口 16	8	2.5Y8/2	N/5	赤色粒含、口内外行、胴外行、胴内行、指付、接合痕、外黒斑有、漆 12 群
50	た 130	遺物集中 2・3・43	土師器	高杯	口 18.8	22	2.5Y7/1	N/4	内外行、畿内系退化、漆 12 群
51	た 131	遺物集中 2・3・5	土師器	高杯	脚 11.9	脚 18	10YR8/2	N/5	赤色粒含、畿内系
52	た 132	遺物集中 2・3 23+75	土師器	小型鉢	口 10.4、底 6.5、高 4.7	25	10YR8/2	10YR8/1	外黒斑有
53	R5	遺物集中 2・3	須恵器	坏 G 蓋		3	7.5YR6/2	N/8	古代 I 期
54	R21	遺物集中 2・3 上層	須恵器	坏 A	口 12.3、底 8、高 3.4	11	N/8	N/8	古代 V、VI 期
55	く 63	遺物集中 1 18、遺物集中 2・3 47+48+50+70+96+99+123+160+173+下層	土師器	甕	口 16.5	9	7.5YR8/4	10YR8/2	赤色粒含、口内外行、胴外行→胴内行、外黒斑、布留系
56	S1	SD(SK)03 上層 159	土師器	甕	口 15.8	11	7.5YR8/3	10YR8/2	赤色粒含、口内外行、胴外行、胴内行、外黒斑、布留系
57	S2	SD(SK)03 上層	土師器	壺	口 9.4	5	7.5YR8/6	2.5Y8/2	胴外行?、胴内行?、指付、外黒斑有
58	S4	SD(SK)03 上層 181	土師器	壺	口 10.4、高 15.4	15	5YR7/8	10YR8/3	赤色粒含、口外行?、口内行、胴外行、接合痕、外黒斑有、漆 12 群
59	S3	SD(SK)03 上層 149+176+206+208	土師器	高杯	口 23.9	11	2.5Y6/6	2.5Y4/1	赤色粒含、畿内系、漆 12 群
60	S5	SD(SK)03 上層 217	土師器	壺	口 15.7、高 33.2	25	10YR8/3	2.5Y6/1	口内外行、胴外行→口内行、胴内行、指付、外黒斑、山陰系、土器内からガラス質物質片、漆 12 群
61	S6	SD(SK)03 上層 217	土師器	甕(転用器台)	口 14.2	35	2.5Y8/3	2.5Y8/2	口内行、口→胴外行、胴内行、外黒斑、くの字裏転用器台、漆 12 群
62	S8	SD(SK)03 上層 217	土師器	甕			2.5Y8/2	2.5Y8/2	S6・S7 と同一、胴外行、胴内行、外黒斑
63	S7	SD(SK)03 上層 217	土師器	甕			2.5Y8/2	2.5Y8/2	S6・S8 と同一、胴外行、胴内行、指付、外黒斑・黒斑有、布留系
64	S9	SD(SK)03 上層 215	土師器	小型壺	口 7.8、高 7.5	2	5YR8/4	2.5Y8/2	赤色粒含、胴外行、胴内行、接合痕、漆 12 群
65	S10	SD(SK)03 中層 234	土師器	甕	口 17.6	2	5YR8/4	2.5Y8/3	赤色粒含、口内外行、胴外行、胴内行、くの字、漆 12 群
66	S11	SD(SK)03 中層 225	土師器	小型壺			2.5Y6/2	2.5Y6/1	胴外行→上平行、胴内行、胴内行?、接合痕、外黒斑有、漆 12 群
67	く 62	SD(SK)03 下層	土師器	甕	口 24.6	6	10YR8/2	2.5Y8/2	赤色粒含、内外行?、山陰系
68	S12	SD(SK)03 下層 258	土師器	壺	口 18、高 36.2	36	2.5Y8/3	2.5Y8/2	口頸内外行、胴外上段、胴外下(9割)→(残 1)→2割、胴内上段、胴内下(当て貝)→2割、頸外縁成後穿孔 1、外黒斑・黒斑有、山陰系、漆 12 群
69	く 58	SD(SK)03 最下層	弥生土器	甕			2.5Y8/3	N/4	外履凹線、内指付、終末期(月影系)
70	S15	SD08 上層 189	土師器	甕	口 12.8	7	10YR8/3	10YR8/2	赤色粒含、口内外行、胴外行、胴内行、外黒斑・黒斑有、布留系
71	S16	SD08 上層 200	土師器	甕	口 13.6	12	2.5Y8/2	2.5Y5/1	赤色粒含、口内外行、胴外行→胴内行、胴内行、指付、外黒斑、くの字、漆 12 群
72	S14	SD08 上層 (191+197+214+219+222+236+9 層)	土師器	高杯	口 16.4	25	10YR7/4	10YR6/2	外上段上?、外下段上?、内行、2 次焼熟、外黒斑有、畿内系、漆 11 群
73	S13	SD08 上層 (185)	土師器	高杯	脚 11.6	脚 30	7.5YR8/6	10YR8/4	赤色粒含、内行?、行、畿内系、漆 11-12 群
74	S19	SD08 下層 252	土師器	甕	口 14.1	11	2.5Y8/4	N/4	赤色粒含、口外板付、口内行、胴外行→上平板付、胴内行(組)、外黒斑、布留系
75	S21	SD08 下層 241	土師器	甕	口 16.4	10	2.5Y8/2	2.5Y7/1	外板付、内板付→指付、内黒化、布留系
76	S17	SD08 下層	土師器	甕	底 3.6	底 36	10YR8/3	2.5Y8/3	赤色粒含、外行→口内行、内行→板付
77	S18	SD08 下層 259	土師器	甕	口 16.7	13	2.5Y8/3	2.5Y8/3	口外行→行(接合痕)、口内行、胴外行、胴内行→指付、外黒斑、くの字、漆 12 群
78	S23	SD08 下層 248	土師器	甕	口 15.5	4	2.5Y8/2	2.5Y6/1	外行、口内行、胴内行、接合痕、外黒斑、くの字、漆 12 群
79	S20	SD08 下層 251	土師器	壺	口 13.3	8	2.5Y8/2	2.5Y7/2	内外行、接合痕
80	S25	SD08 下層 246	土師器	高杯	口 19.5、脚 12.6、高 15.3	9	2.5Y8/3	2.5Y8/2	内外行、畿内系、漆 12 群
81	S24	SD08 下層 242	土師器	高杯	脚 11.5	4	2.5Y8/2	2.5Y7/1	外行→行、内行→行、畿内系

掲載No.	実測No.	出土位置	分類	器形	寸法(長さcm・重さg)	残/36	表面色調	断面色調	備考
82	S22	SD08 下層 249(最下層)	土師器	甕	口 14.7		10YR8/2	10YR7/1	口内沖、胴外沖、胴内沖?・指柄、接合痕明確、外裏痕、くの字、漆 12 群
83	た 147	SD08	石器	砥石	長(7.4)、幅 4.6、厚さ 2.3、重(83.8)				流紋岩
84	た 65	SX10 35	土師器	甕			7.5YR8/6	2.5Y7/1	赤色粒含、口外履凹陥、漆 5・6 群
85	た 62	SX10 上層	土師器	甕	口 16.8		10YR8/2	2.5Y7/1	赤色粒含、内外沖、能登系、漆 5・6 群
86	た 64	SX10 29	土師器	壺	口 11		2.5Y7/6	2.5Y8/2	赤色粒含、内外沖?、瓶形、漆 5・6 群?
87	た 61	SX10 39	土師器	甕	口 16.5		2.5Y8/2	2.5Y8/1	口内外沖、胴外沖、胴内沖?指柄、接合痕、くの字、漆 12 群
88・89	S30	SX10 1+40	土師器	甕	口 20		2.5Y8/3	2.5Y8/3	口外沖、口内沖?行、胴外沖?指柄、胴内上下沖?、接合痕、胴外裏痕、胴内沖?痕、胴外裏痕有、くの字、30・1・30・2で同一個体
90	た 63	SX10 68	土師器	壺	口 10.7		7.5Y8/6	10YR8/3	赤色粒含、口内外沖、頸内指柄、漆 12 群
91	た 60	SX10 上層	土師器	高杯	口 14.9、脚 11.8、高 12.2		10YR8/2	2.5Y8/2	内外沖、畿内系、漆 11 群
92	た 40	SX01 B10・B11 北側擁壁 6-1 層	土師器	甕	口 16.4		2.5Y7/3	N/4	口外沖、口内沖?行、胴外沖、胴内沖?行、接合痕、外裏痕有、くの字、漆 12 群
93	S29	SX01 北側擁壁 6-2 層	土師器	甕	口 15		7.5YR8/6	10YR8/2	赤色粒含、口内外沖、胴外沖、胴内(外?)沖?行、指柄、外裏痕・黒斑有、布留系、S28 と共伴
94	S28	SX01 北側擁壁 6-2 層(187)	土師器	甕	口 26.3		10YR8/4	2.5Y8/3	赤色粒含、口内外沖、胴外沖、胴内(外?)沖?行、指柄、外裏痕・黒斑有、山陰系、漆 9-10 群
95	た 85	SX01 北側擁壁 6-2 層	土師器	壺	口 16.4		2.5Y8/3	2.5Y8/1	赤色粒含、口内外沖、胴内沖?行、山陰系、漆 10・11 群
96	< 22	SX01 北側擁壁 6-2 層	土師器	小型壺	口 8.9、高 9.7		10YR8/2	2.5Y8/1	赤色粒含、口内外沖、内沖、外裏痕有、漆 12 群
97	< 24	SX01 B10・B11 北側擁壁 6-1 層	土師器	小型壺	口(8.7)、高(8.2)		10YR8/2	10YR8/2	内沖?、漆 12 群
98	< 10	SX01 北側擁壁 4	土師器	高杯			7.5YR7/6	2.5Y5/1	
99	< 11	SX01 北側擁壁	土師器	高杯	脚 10.6	脚 19	5YR7/6	2.5Y4/1	赤色粒含、内外沖、漆 12 群
100	< 36	SX01 B10・B11 北側擁壁 6-1 層	土師器	鉢か	口 36		7.5YR8/6	2.5Y7/2	赤色粒含、内外沖、接合痕、口料?、外裏痕有
101	た 52	C09・D09(SX10)	土製品	土師	長 3.6、幅 3.3、孔 1.5、重 25.5		10YR8/3	10YR8/2	赤色粒含、沖?・指柄
102	< 78	C09・D09(SX10)	石製品	有孔棒状製品	長(7.2)、幅 1.6、厚 0.9、重(16.6)				粘板岩
103	< 79	C09・D09(SX10)	石製品	有孔円板	長 2、幅(1.2)、厚 0.3、重(1.6)				滑石
104	R47	SX01 北側擁壁+B11 上層	須恵器	鉢 B	口 21.8		N/3	N/6	口頸外 1 条沈痾、体外 1～2 条沈痾、体外下?。古代 IV 2 期以降
105	< 67	SX01 北側擁壁 2	土師器	柱状皿 or 碗	台 5.1	台 24	7.5YR8/6	10YR8/3	赤色粒含
106	た 35	SX01 141(遺物集中 4)	土師器	甕	口 19.8		2.5Y8/2	2.5Y7/1	赤色粒含、胴内指柄?、接合痕、くの字、漆 12 群
107	S27	SX01 122-140-152-155-157-159-161-170-172-193-227-244-427-440-443-遺物集中 4 上層	土師器	甕	口 18.4		2.5Y8/3	2.5Y8/1	口内外沖、胴外沖、胴内沖?指柄、接合痕、外裏痕?・黒斑有、くの字、漆 12 群
108	た 39	SX01 449-451+遺物集中 4 上層	土師器	甕	口 17.2		7.5YR8/4	2.5Y6/1	胴外沖、胴内沖?行、接合痕、外裏痕、くの字、漆 12 群
109	< 5	SX01 遺物集中 4	土師器	高杯	口 17.3		10.2 5Y8/2	N/6	内外沖?行、接合痕、外裏痕有、畿内系、12 群
110	< 8	SX01 146(遺物集中 4)	土師器	高杯	口 15.7		2.5Y8/2	2.5Y4/1	畿内系
111	< 14	SX01 413(遺物集中 4)	土師器	高杯	脚 10.1	脚 26	5YR8/4	N/4	赤色粒含、畿内系、漆 11-12 群
112	< 7	SX01 227(遺物集中 4)	土師器	高杯	口 21.4		2.5Y8/4	2.5Y8/2	赤色粒含、内外沖付き、漆 13 群
113	< 26	SX01 256(遺物集中 4)-D11・E11	土師器	小型壺	口 7.6、高 7.2		2.5Y8/2	2.5Y5/1	外沖、内沖?指柄、外裏痕有、漆 12 群
114	R23	SX01 120+223(D13+遺物集中 4)	須恵器	盤 A	口 16.7、底 13.8、高 2.4		N/7	N/7	底外?記号「I」、能美産
115	R1	SX01 42(D14 遺物集中 6)	須恵器	杯 B 蓋	口 12.7、つ 2.6、高 2.8、つ高 1.2		N/7	N/7	重焼 II b 類、古代 IV 期
116	R10	SX01 63(D14 遺物集中 6)	須恵器	杯 B 身	口 11.3、台 8.6、高 4.3、台高 0.6		N/6	N/8	能美産、古代 III - IV 期
117	R14	SX01 45(D14 遺物集中 6)	須恵器	杯 A	底 8.2、高 3.6		5PB7/1	5PB7/1	芯みあり、2 次被熱、底外裏痕(転用?)
118	R20	SX01 遺物集中 6 下層	須恵器	杯 A	口 12.9、底 8.8、高 4		N/7	N/8	海綿骨計量

## 第Ⅱ章 漆町遺跡金屋地区発掘調査

図版 No.	実測 No.	出土位置	分類	器形	寸法(長さcm・高さg)	残 /36	表面色調	断面色調	備考
119	R18	SX01 340(D14 遺物集中6)	須志器	坏A	口13.3、底8.6、高3.2	4	N/8	N/8	
120	R24	SX01 44 + 45 + D14・E14上層(遺物集中6)	須志器	盤A	口16、底13.6、高2.3	11	N/7	N/7	能美産
121	R27	SX01 45(D14 遺物集中6)	須志器	盤A	口15.3、底13、高2.1	5	N/7	N/7	底内黒痕(転用説?)
122	R58	SX01 66 + 352 + 354 + 355 + 356 + 357 + 368 + 377 + 378 + D14・E14・F14(遺物集中6)	須志器	甕	頸24.9		N/7	5Y8/1	胴外斜ハネ類+特A、胴内当て具Db類?
123	< 15	SX01 305+307・E14下層(遺物集中5)	土師器	高杯	口13.9	3	2.5Y8/1	2.5Y7/1	外黒斑有、畿内系、漆12群
124	< 16	SX01 302+ 遺物集中5・D14・E14上層	土師器	高杯	口16.9、脚11.2、高11.8	18	2.5Y8/2	2.5Y8/2	赤色粒含、漆12群
125	R56	SX01 112 + 309 + 373 + D11・E11・D13・E13・D14・E14(遺物集中5・6)	須志器	甕	口22、頸17.8	7	N/6	5Y7/1	胴外斜ハネ類+特A、胴内当て具Da類
126	た37	SX01 遺物集中8	土師器	甕	口16	6	2.5Y8/3	2.5Y8/2	布留系
127	た38	SX01 遺物集中8	土師器	甕	口16.6	8	10YR8/3	2.5Y8/2	赤色粒含、口内外行、胴外斜ハネ、胴内斜リ・指柱、布留系
128	< 6	SX01 遺物集中8	土師器	高杯	口15.1	26	5YR7/8	2.5Y8/2	赤色粒含、畿内系、漆10群
129	< 17	SX01 408+ 遺物集中8	土師器	器台	口7.2、脚9.8、高6.6	30	7.5YR/7/6	2.5Y6/1	内外斜リ・指柱、脚内下内?、漆10群
130	< 21	SX01 遺物集中8下層	土師器	高杯か	台11	台15	2.5Y8/2	2.5Y5/1	外行・特ミ?、台底斜リ、内・台底黒化、漆14-15群
131	た88	SX01 D10	土師器	甕	口26.8	3	2.5Y6/2	2.5Y8/2	月影系、漆5・6群
132	た59	SX01(SX05)	土師器	甕	口24.8	7	2.5Y7/3	2.5Y5/1	口板斜リ、胴内斜リ、山陰系、漆10-11群
133	た58	SX01(SX05)	土師器	高杯	口13.9	7	5YR8/4	10YR8/2	赤色粒含、外行、内?斜リ、畿内系、漆10-11群
134	< 13	SX01 D10	土師器	高杯			5YR7/6	10YR7/1	内外斜リ、中央、脚内黒化、漆15群
135	< 27	SX01 D11・E11	土師器	ニホア土器(密)			10YR8/2	10YR8/2	赤色粒含、外斜リ+特A、内行・指柱
136	< 28	SX01 299(E11)	土師器	手づくね土器	口5.6、底4.3、高4.4		2.5Y8/2	2.5Y8/2	
137	た36	SX01 E14上層	土師器	甕	口17.8	11	2.5Y8/1	2.5Y8/1	赤色粒含、口縁磨み上げ、接合痕、くの字、漆12群
138	た33	SX01 48(E14)	土師器	甕	口17	2	7.5YR8/4	2.5Y7/1	赤色粒含、内外斜リ、内面黒化、くの字、漆15群
139	た34	SX01 E13	土師器	甕	口14	7	5YR7/6	2.5Y8/3	赤色粒含、内外斜リ、外双縦、内?斜リ、くの字、漆14群
140	S26	SX01 D14・E13・E14一括	土師器	甕	口24.1	9	10YR8/2	10YR7/2	赤色粒含、口内外斜リ、胴外斜リ、胴内上?斜リ、胴内下?斜リ、外双縦・黒斑有、山陰系、漆12群
141	た86	SX01 E14下層	土師器	甕	口15	5	2.5Y8/3	2.5Y4/1	赤色粒含、口外行、口内?斜リ、胴外斜リ、山陰系、漆11・12群
142	た87	SX01 E14下層	土師器	甕	口19.4	3	2.5Y7/2	2.5Y6/1	内外斜リ、内面黒化、漆12群
143	< 12	SX01 D14・E14下層	土師器	高杯			2.5Y6/2	2.5Y6/1	内外斜リ、接合痕、外黒斑有、漆12群
144	< 18	SX01 D14・E14下層	土師器	高杯	口18.7、脚12、高12.7	11	2.5Y7/2	2.5Y5/1	外行→特A類、杯内斜リ→特A類、胴内行、接合痕、外黒斑有、畿内系、漆12群
145	< 9	SX01 472(E13)	土師器	高杯	脚10.7	脚7	7.5YR8/3	N/4	赤色粒含
146	< 23	SX01 E14下層	土師器	小型甕	口8.7、高7.6		2.5Y8/2	2.5Y8/1	赤色粒含、外斜リ+特A、内行・指柱、外黒斑有、漆12群
147	< 25	SX01 E14下層	土師器	小型甕	口9.6、高9.1	3	2.5Y8/3	10YR6/1	外斜リ+特A、内行、外黒斑有、内面黒化、漆12群
148	< 19	SX01 E13・E14	土師器	有脚碗	底4.9		2.5YR6/8	N/4	赤色粒含、内外斜リ、漆13群
149	< 20	SX01 E14下層	土師器	碗	口14.2、高5.8	25	10YR8/3	2.5Y7/2	外?、口外斜リ、内?→特A類の行、漆13・14群
150	< 31	SX01 E13・E14	土師器	手づくね土器	口6.3、底4.5、高5.2		2.5YR8/2	2.5Y6/1	赤色粒含
151	< 33	SX01 E13・E14下層	土師器	手づくね土器	口5.3、底4.4、高5.1		7.5YR8/4	7.5YR8/4	赤色粒含
152	< 29	SX01 E13・E14下層	土師器	手づくね土器	口4.6、底4.2、高5.7		2.5Y8/3	2.5Y8/3	外黒斑有
153	< 30	SX01 E13・E14	土師器	手づくね土器	口5.1、底4.2、高5.7		10YR7/2	10YR8/4	赤色粒含、外黒斑有
154	< 32	SX01 E13・E14下層	土師器	手づくね土器	口5.9、底5、高7.4		10YR8/4	2.5YR8/2	赤色粒含、外黒斑有
155	< 34	SX01 D14・E14上層	石製品	紡錘車	径3.4、厚1.9、孔0.7、重3.0g				滑石

掲載 No.	実測 No.	出土位置	分類	器形	寸法(長さcm・高さg)	残 /36	表面色調	断面色調	備考
156	< 35	SX01 470・471(E13)	土師器	甗	口21.6, 高24.9, 底12	7	7.5YR8/4	10YR8/2	赤色粒含、外縁→打?、内板打、 道13群以降
157	た 26	SX01 D10・E11	須恵器	坏H蓋	口11、高3.9	11	N/7	7.5YR7/3	天外切打、能美産、古代I 2-II 1 期
158	た 25	SX01 473(E13)	須恵器	坏H蓋	口12.5, 高3.5	27	N/8	N/8	天外打?粗、古代I 1期
159	た 22	SX01 285・D11・E11	須恵器	坏H身			5P7/1	N/6	体外回転打?粗、能美産、古代1期
160	た 20	SX01 E14 下層	須恵器	坏H身	口11.8, 高4.2	17	N/7	N/7	古代I 1期
161	た 21	SX01 E13	須恵器	坏H身	口13.2	6	N/8	N/8	古代1期
162	R43	SX01(SX02)	須恵器	坏H身			N/7	N/7	古代1期
163	た 27	SX01 E13	須恵器	坏G蓋	口14.2, 高2.2	10	5Y5/1	N/8	天外回転打?粗、古代II 2期
164	た 28	SX01 E10	須恵器	坏G蓋	口15.6, 高2.1	7	N/8	N/8	天外回転打?粗、古代II 2期
165	た 16	D11 側溝(SX01)	須恵器	坏G身	口9.4, 底6.3, 高3.2	5	N/7	N/7	能美産、古代I 2-II 1期
166	R2	SX01 337(D14)	須恵器	坏B蓋	口12、つ1.6, 高3.1、 つ高1.1	11	N/8	N/8	古代II 2期
167	R50	SX01 84(D13)	須恵器	坏B身	台8.8, 台高0.8	台29	N/7	N/8	古代II 2-II 3期
168	R51	SX01 D13・E13	須恵器	坏B身	台8, 台高1	台32	N/7	N/8	外軸化、外1条沈線?、古代II 2- 3期
169	た 29	SX01 D11・E11 上層	須恵器	高坏			N/6	N/6	坏外縁1段
170	た 30	SX01 D14・E14 上層	須恵器	長頸甗	頸4.2		N/7	N/8	頸外切打条線→沈線2条、胴外沈 線2条、胴外下打、頸部取り出し
171	R49	SX01 468(E13)	須恵器	鉢or 甗	底15.6	底13	5P7/1	N/8	体外切打?、底外指打?、古代I-II 期
172	た 17	D11 側溝(SX01)	須恵器	甗	口24.8	5	N/7	5Y5/1	能美産、古代1期
173	R48	SX01 32 + D13・E13 + D14・E14 上層	須恵器	甗(把 手)			N/7	N/8	外3打Hc類?→打?・1条沈線、内 当て具De類?→打?、古代I 2期
174	R4	SX01 69 + 71(D13・ D14)	須恵器	坏B蓋	口16.9	9	5P7/1	N/8	古代IV期
175	R3	SX01 105(D13)	須恵器	坏B蓋	口14.9	11	N/8	2.5Y8/1	重焼II b類、古代IV-V期
176	R6	SX01 62 + 337 + D14・ E14 上層	須恵器	坏B身	口17.1、台11.5、高7.7、 台高0.7	13	N/6	N/7	古代IV期
177	R7	SX01 94(D13) + 側溝	須恵器	坏B身	口16.9, 台13, 高6.2, 台 高0.6	4	N/6	N/8	体外2条沈線、白色堅磁、能美産、 古代III-V期
178	R12	D12 ~ 14 側溝(SX01)	須恵器	坏B身	口14.6, 台10.3, 高6.5, 台 高0.5	9	N/6	N/7	古代IV期
179	R13	D12 ~ 14 側溝(SX01)	須恵器	坏B身	口13.1, 台7.4, 高4.8, 台 高0.3	5	2.5Y6/1	N/8	能美産、古代V期
180	R9	SX01 46 + D14・E14 上 層	須恵器	坏B身	口16.9, 台13, 高6.2, 台 高0.6	3	N/6	N/7	能美産、古代IV期
181	R11	SX01 36(E14)	須恵器	坏B身	口10.6, 台7.7, 高4.3, 台 高0.5	1	5PB6/1	N/7	古代IV期
182	R17	SX01 D14・E14 上層	須恵器	坏A	口12.4, 底8.5, 高3.4	10	5P7/1	N/7	
183	R15	SX01 97 + 337(D13・ E14)	須恵器	坏A	口12.4, 底9.2, 高2.7	20	2.5Y8/2	2.5Y8/1	能美産
184	R16	SX01 469 + D13・E13 上層	須恵器	坏A	口12, 底6.6, 高3.2	19	N/6	5YR6/2	能美産
185	R19	SX01 62(E14)	須恵器	坏A	口11.7	4	N/6	N/7	体外切記号「X」、能美産
186	R28	SX01 19(E14)	須恵器	甗A	口15, 底12.4, 高2.1	6	N/6	N/6	
187	R26	SX01 D14・E14 上層	須恵器	甗A	口15.2, 底12.8, 高2.1	5	N/7	N/7	
188	R25	SX01 D14・E14 上層	須恵器	甗A	口16.4, 底13.8, 高2.5	2	N/8	N/8	白色堅磁
189	R8	SX01 118(D13) + 表土除 去	須恵器	甗B	台13.4, 台高0.5	23	5PB7/1	7.5YR6/2	能美産
190	R29	SX01 8(D14)	須恵器	埴 土B	台7, 台高0.7	台16	5PB6/1	5PB7/1	系切磁、古代VI期
191	R30	SX01(SX02)	須恵器	埴 土A	口13.2, 底7.2, 高4	9	N/7	N/7	古代VI 2-VI 3期
192	R45	SX01 15 + 16 + D14・ E14 上層	須恵器	鉢F	口17.7	23	N/6	N/7	口外2条凸帯、体外2条沈線、古 代III期以降
193	R46	SX01 11 + 17(D14)	須恵器	鉢F			N/6	N/8	体外2条沈線、古代III期以降
194	た 138	SX01 D10・E10	土師器	長頸甗	口19.5	9	7.5YR7/4	10YR8/3	赤色粒含、口頸内外打、胴外切 Hc類、胴外打→打?・打?、古代 I 2-II 2期
195	た 137	SX01 121(D13)	土師器	長頸甗	口21.8	4	7.5YR8/4	2.5Y8/2	赤色粒含、口頸揃み上打→面取り、 口頸外打・胴外打、古代III-V期
196	た 139	SX01 113(D13)	土製品	壺形土 製品?			5YR8/4	2.5Y7/2	口? 底部分か
197	< 66	SX01 D11・D12	土師器	甗	口7.9, 高1.6	10	2.5Y6/3	2.5Y7/2	油煤痕
198	< 65	SX01 407(E12)	土師器	甗	口9.7, 高2.8	15	7.5YR8/3	10YR8/2	赤色粒含、油煤痕
199	た 145	SX01 102(D13)	石器	砥石	長(12.9)、幅(7.1)、厚さ 2.1、重(279.3)				粘板岩
200	た 146	SX01 D12・E12	石器	砥石?	長(10.4)、幅(3.6)、厚 さ(2.8)、重(112.5)				玻璃質岩
201	た 48	SX12 1・2層	土師器	小皿A	底5.3	13	10YR8/3	10YR8/3	
202	た 49	SX12 4層	土師器	小皿A	底4.5	7	2.5Y8/2	10YR8/2	系切磁



掲載 No.	実測 No.	出土位置	分類	器形	寸法(長さcm・重さg)	残 /36	表面色調	断面色調	備考
203	た47	SX12 3層	土師器	柱状小皿	台4.9		10YR8/3	10YR8/3	赤色粒含
204	た44	SX12 3層	土師器	皿	口7.3、高1.9	25	2.5Y7/3	2.5Y6/3	赤色粒含、油煤痕
205	た46	SX12 1・2層	土師器	皿	口8.6、高1.5	4	7.5YR8/3	10YR8/2	赤色粒含
206	た43	SX12	土師器	皿	口8.8、高1.3	11	10YR8/3	10YR8/2	赤色粒含、油煤痕
207	た45	SX12 3層	土師器	皿	口11.4、高1.9	9	2.5Y5/2	2.5Y7/2	底内附付性
208	た128	P3	土師器	甕	口17	7	2.5Y8/2	2.5Y7/1	口外黒斑有、布留系
209	た56	SD05・P3	土師器	高杯	脚11.3	脚15	5YR7/6	7.5YR8/3	赤色粒含、内外付?、内付、畿内系、漆10層
210	た57	P7 上面	土師器	高杯	脚11.5	脚3	7.5YR8/3	10YR8/2	赤色粒含、内外付?、畿内系、漆10-11層
211	た50	P7 上面	土師器	碗B	台8.2	台6	7.5YR8/4	10YR8/2	赤色粒含、足高高台
212	た51	P8	土師器	内黒碗	口13.2	6	2.5Y7/1	2.5Y7/1	内付?、内黒
213	く59	F09	弥生土器	甕			2.5Y8/1	2.5Y6/1	外腹凹線、後期
214	た129	G09 側溝	土師器	甕	口18.6	6	2.5Y8/2	2.5Y8/1	口内外付?、胴外付?、胴内付?、布留系
215	た133	B09 上層	土師器	器台			2.5Y7/2	N/4	内外付?
216	た55	E10・F10 試験坑跡内	土師器	ミナブ土器	口5.7、底3.1、高4.3	17	10YR8/4	10YR8/4	赤色粒含、外黒斑有
217	た53	横土	土師器	手づくね土器	口(6.9)、底5.5、高(4.9)		10YR8/3	2.5Y8/2	赤色粒含
218	た54	横土	土師器	手づくね土器	口(5.8)、底5、高(4.2)		10YR8/3	10YR8/3	赤色粒含
219	た136	G09 最上層	土製品	土玉	長3.1、幅3.6、孔0.9、重21.6		2.5Y8/2	2.5Y5/1	
220	た135	F09・G09 側溝	土製品	土錘	長6.1、幅3.6、孔1.2、重80.8		10YR8/3	2.5Y7/2	赤色粒含
221	R44	SX03 + B09・C09 上層	須恵器	ハソウ	口14.1	1	N/4	N/7	口外下沈線1条、口頸外沈線文、古代Ⅱ期
222	た19	表土除去	須恵器	御付鉢	口12.6	7	N/3	N/8	古代Ⅱ期
223	た18	表土除去	須恵器	甕	口17.3	5	N/8	N/8	胴外付Ha類→付A、胴内当て具Da類、古代Ⅰ期
224	く77	砂? (眼114号土坑)	石器	砥石	長(9.6)、幅4.8、厚3.6、重(305.8)				砂岩
225	く74	C09・D09	鋳造関連製品	結合部			5PB6/1	5PB6/1	近世
226	た141	SX01 280(D11)	鋳造関連製品	湯だめ			5PB6/1	5YR7/8	近世
227	た142	SX03 上層一括	鋳造関連製品	注口栓			5PB6/1	5PB6/1	近世
228	た140	砂? (眼151号土坑)	鋳造関連製品	羽口			5PB6/1	5YR8/4	近世
229	く75	P02 上面	鋳造関連製品	鋳型(胴外型)			5YR7/6	2.5Y8/2	近世
230	く73	SX01 49(E14)	鋳造関連製品	ジョウ			5YR8/4	2.5Y5/1	近世

第3表 B区 木製品観察表

掲載No.	整理No.	枝番	大別	種別	属性	樹種	木取り	実測	通橋	層位等	備考	長	幅	厚	高	径	
w1	B-16		祭祀具	その他	家形部材	スギ	割材	○	SE01	上層No.25	複数穿孔有(一部木釘残存)、B-15～B-20組み合わせ、小片2点が接合	48.8	31	2.4			
w2	B-17	1	その他	加工材	釘	×	割材		SE01								
		2	祭祀具	その他	家形部材	スギ	割材	○	SE01	上層No.28	複数穿孔有(一部木釘残存)、B-15～B-20組み合わせ	65	30.8	2.3			
		3	その他	加工材	釘	スギ			SE01								
		4	その他	加工材	釘	スギ			SE01								
		5	その他	加工材	釘	スギ			SE01								
w3	B-18	1	祭祀具	その他	家形部材	スギ	割材	○	SE01	上層No.26	複数穿孔有(一部木釘残存)、B-15～B-20組み合わせ	64.75	29	2.5			
		2	その他	加工材	釘	スギ			SE01								
w4	B-20		祭祀具	その他	家形部材	スギ	割材	○	SE01	上層No.27	左右側面に3穿孔有、B-15～B-20組み合わせ	57	(26.1)	2			
w5	B-19	1	祭祀具	その他	家形部材	スギ	割材	○	SE01	上層No.24	複数穿孔有(一部木釘残存)、B-15～B-20組み合わせ	66.4	25	2			
		2	その他	加工材	釘	スギ			SE01								
w6	B-15		祭祀具	その他	家形部材	スギ	割材	○	SE01	上層No.8	4穿孔有(木釘残存)、B-15～B-20組み合わせ	65.65	5.9		3.7		
w7	B-3		その他	加工材	組材B	スギ	割材	○	SE01	上層No.3	B-4と組み合わせ	(26.0)	5	3.6			
w8	B-4		その他	加工材	組材A(特殊)	スギ	割材	○	SE01	上層No.3	B-3と組み合わせ	43.3	(3.6)	2.8			
w9	B-2		農耕具	調整具	横碇	エゴノキ属	芯持丸木	○	SE01	上層一括	横碇か	(18.9)	3.8	3.5		握り部径3.2	
w10	B-9		その他	加工材	杭	ウツギ属	芯持丸木	○	SE01	黒褐色層掘り下げ	樹皮付き、一部炭化、2片に破損	(26.1)				2.7	
w11	B-6		その他	加工材	残材	ヒノキ	板目	○	SE01	黒褐色層掘り下げ		10.5	5.8	2.6			
w12	B-1		その他	加工材	板材	スギ	追柱目	○	SE01	上層No.13	のこぎり痕	39.9	13.7	1.3			
w13	B-5		その他	加工材	棒状	スギ	板目	○	SE01	上層No.17	4片に破損	48.4	2	0.55			
w14	B-12		その他	加工材	切断材B	スギ	割材	○	SE01	中層No.13	筋状の使用痕多数有	23.1	10.2	6.3			
w15	B-13		その他	部材		コナラ属アカガシ亜属	板目	○	SE01	中層一括		(10.05)	4.4	3.1			
w16	B-75		用途不明	部材		コナラ属アカガシ亜属	板目	○	SE01	中層一括		11.4	2.95	1.2			
w17	B-14		その他	加工材	板材	スギ	板目	○	SE01	中層一括		(52.2)	9	1			
w18	B-10		その他	加工材	杭	コナラ属アカガシ亜属	芯持丸木	○	SE01	中層一括	2片に破損	(38.4)	3.5	3			
w19	B-11		その他	加工材	杭	アカメガシワ	芯持丸木	○	SE01	中層No.6	一部炭化、5片に破損	(63.5)	3.9	3			
w20	B-7		祭祀具	番串	スギ	スギ	板目	○	SE01	黒灰層		(18.3)	2.5	0.35			
w21	B-8		容器・食事具	容器	椀	ケヤキ	横木取り	○	SE01	黒灰層	内外面全体に黒色うるし塗布(但し底面を除く)、外面の一部炭化、全体に赤みあり、3片に破損			3.5		口径10.4、高台径6.2	
w22	B-24		その他	加工材	残材	スギ	板目	○	SX01	E14区下層	2点あり、明確な接点はないがひとつは破片と思われる、残材辺材の部分	(24.5)	(14.6)	4.5			
w23	B-21		漁撈具	枠		イヌガヤ	芯持丸木	○	SX12	木①	樹皮付き、未成品か	(54.2)				2.5	
w24	B-22		漁撈具	枠		イヌガヤ	芯持丸木	○	SX12	木②	樹皮付き、未成品か	(8.3)				2.2	

---

# 付 章

---

## 漆町遺跡金屋地区出土ガラス質物質片の自然科学的検討

金沢学院大学 中村晋也

### 1 はじめに

対象とするガラス質物質片は、平成 25 年度調査区 B 区の遺構群のうち、SD (SK) 03 に廃棄された山陰系壺形土器(No 217) (第 1 図)の土器内に混入した埋土中より発見されたものである(第 2 図)。ガラス質物質片の最大長は約 3cm で、不定形である(第 3 図)。

本項では、蛍光 X 線分析と実体顕微鏡観察により、当該資料が「ガラス質」との推定に至った結果について報告したい。

### 2 使用機器と測定条件

試資料の化学組成を明らかにする目的で、本学所有のエネルギー分散型微小部蛍光 X 線分析装置 SEA5230 (SII Nano Technology 株式会社製)を使用し、蛍光 X 線分析(定性分析)を実施した。X 線発生部の管球ターゲットは Mo (モリブデン)、照射径は 1.8mm、1 箇所の測定時間は 420 秒(有効時間 300 秒)、励起電圧は 15kV と 45kV、電流は自動設定、試料室内は真空とし、複数箇所を測定した。

また、資料の拡大観察は、実体顕微鏡 OLYMPUS SZX7 (オリンパス社製)を使用して実施した。

### 3 蛍光 X 線分析結果

蛍光 X 線分析結果のスペクトルを、第 4 図に示す。検出された元素は、Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Zr (ジルコニウム) の 10 元素であった。

この結果は、筆者がこれまでに同機器、同条件で測定してきた「ソーダ石灰ガラス」で得られるスペクトルと酷似している。仮にそのように仮定した場合、融剤となる Na (ナトリウム) が検出されていないのだが、Na は使用した機器の軽元素側検出限界であり、当機の照射・検出距離が深く微量の Na を検出しづらいことに原因があり、Na の含有を否定するものではない。むしろ、ガラスの主成分である Si の顕著な検出が認められること、K の検出強度が低く Ca の顕著な検出が認められること、Sr と Zr の顕著な検出が認められることといった、ソーダ石灰ガラスの特徴と一致する点を根拠としたい。

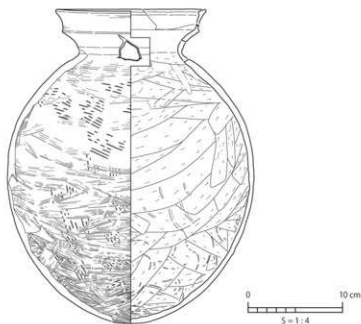
後述する顕微鏡観察で示す図を参照いただくとわかるのだが、資料は半透明の淡緑色を呈している。これは検出された元素のうち Fe が関与していることが推定されるが、ガラス製品の形状を留めていない当該資料においては、製品製作に関連した意図的な添加によるものかどうかについては言及できない。

### 4 実体顕微鏡観察結果

肉眼観察では、資料表面に平滑なガラス質膜状のものが覆っているように見えていたが、クリーニング後、実体顕微鏡で拡大観察すると、内部まで同質であることが明らかとなった(第 5 図)。色調は淡緑色半透明、貫入の入った軸(うわぐすり)のように、全体に細かいヒビが確認される(第 6 図)。

## 5 おわりに

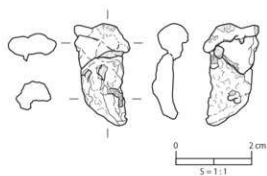
対象資料は、現状ではなんらかの製品を想定させる形状はしておらず、これがガラス製品が二次的な被熱によって変化したものなのかはわからない。しかし、この度の分析・観察の結果から、材質はソーダ石灰ガラス質で、Fe成分の影響で淡緑色の色調を呈している可能性は極めて高いと判断する。



第1図 ガラス質物質片が含まれていた山陰系壺形土器 (No.217) 実測図

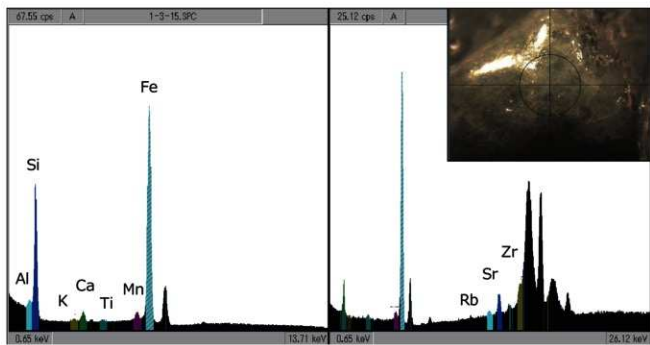


第2図 ガラス質物質片の出土状況



出土位置	分類	寸法(長さcm・重さg)	表面色調	断面色調	備考
SD(SK)03 217 内	ガラス質物質	長2.7cm、幅1.5cm、高1cm、重1.58g	5GY6/1		

第3図 調査対象ガラス質物質片



第4図 蛍光X線分析スペクトラム(左:15kV 右:45kV)



第5図 顕微鏡写真①



第6図 顕微鏡写真②



調査地遠景（平成13年撮影）



SE01 木製品出土状況 1



SE01 木製品出土状況 2 (家形部材)



SE01 上層セクション



SE01 木製品出土状況 3 (中央が家形棟材)



SE01 下層セクション



SE01 完掘





遺物集中1～3様出状況(西から)



SD(SK)03 上層遺物出土状況



SD(SK)03・SD08 下層遺物出土状況(西から)





SD(SK)03・SD08 上層遺物出土状況 (北から)



SD(SK)03・SD08 下層遺物出土状況 (北から)



SX10 完掘



SX01 北側擁壁部分掘削状況



B区中央部 SX01 掘削状況



SX01 遺物集中 4



SX01 遺物集中 6



SX01 遺物集中 8



SX12 東西セクション



SX12 完形 (東から)



SX12 木製品出土状況 (東から)



w1 裏側材



w1 細部 1



w1 細部 2



w2 平側材背面



w2 細部



w3 平側材正面



w3 細部



w4 床材



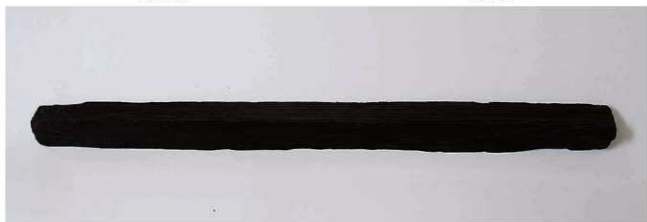
w4 細部



w5 屋根材



w5 細部



w6 棟材



w7



w8



SD(SK)03・SD08 出土土器



SE01 出土土器



## 報告書抄録

ふりがな	こまつしなにいせきはっくつちょうさほうこくしょ 17							
書名	小松市内遺跡発掘調査報告書 XVII							
副書名	漆町遺跡金屋地区							
巻次								
編・著者名	横幕 真、中村晋也							
編集機関	石川県小松市埋蔵文化財センター							
所在地	〒 923-0075 石川県小松市原町ト 77-8 TEL (0761) 47 - 5713							
発行年月日	西暦 2022 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
漆町	石川県小松市 金屋町	17203	310400	36° 24' 19"	136° 29' 03"	2013. 8.26 ~ 2013.12.24	1,027	個人住宅 (3 軒)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
漆町	集落	弥生 古墳 古代 中近世	井戸 (水溜)、土坑、溝、 旧河川	弥生土器、須恵器、土師器、土製品、 石器・石製品、木製品、鑄造関連遺物				金屋地区 (金屋サンバンワリ地区) の調査
要約	梯川中流域左岸の集落遺跡。今報告分では、旧河川肩部周辺において、古代末の家形木製品や、古墳時代中期前半 (漆町遺跡 12 群別) を中心とする遺構一括資料が特筆される。							

---

---

## 小松市内遺跡発掘調査報告書 XVII

漆町遺跡金屋地区

令和4年3月31日 発行

編集・発行 石川県小松市埋蔵文化財センター  
石川県小松市原町ト 77-8 TEL (0761) 47-5713

印刷 株式会社ゲンダ美術印刷  
石川県小松市丸の内町 2-32 TEL (0761) 22-7031

---

---